

県道三谷香川線道路改良工事に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告

百相坂遺跡

1997. 6

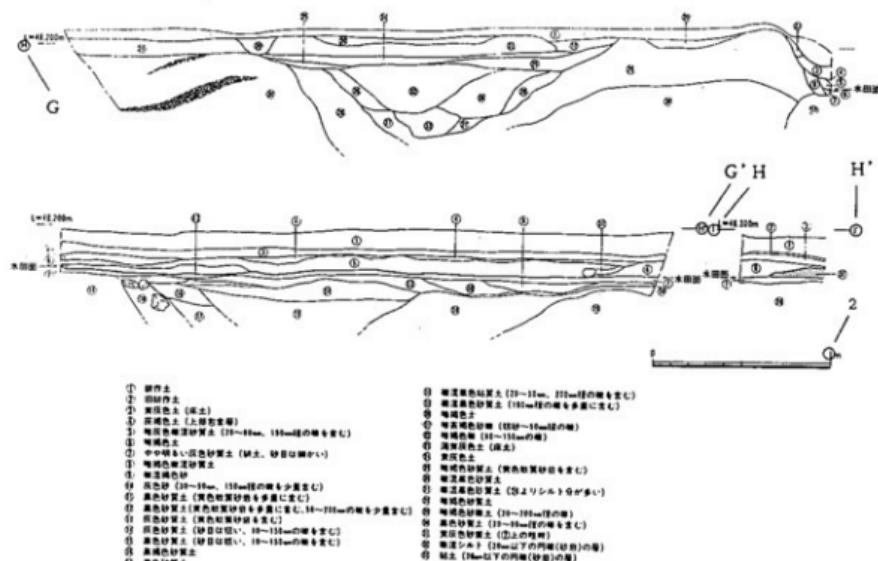
香川県教育委員会

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

百相坂遺跡正誤表

正誤表

	誤	正
20頁 第30図 スケール	0 1 m 0 2 m 	0 5 m 0 1 m
22頁 第32図 スケール	0 1 m 0 2 m 	0 2 m



第32図 B-Z区面整土層断面図

県道三谷香川線道路改良工事に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告

百相坂遺跡

1997.6

香川県教育委員会

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

序 文

香川県教育委員会では、四国横断自動車道や国道高松東道路の建設、高松空港跡地の整備など、大規模開発に伴う埋蔵文化財調査事業を財団法人香川県埋蔵文化財調査センターに委託して実施いたしております。

このたび、『県道三谷香川線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 百相坂遺跡』として刊行いたしますのは、高松市仏生山町に所在いたします百相坂遺跡についてであります。

この遺跡の調査では、古代から中世にかけて、多くの遺構・遺物が出土しております。なかでも、中世の住居施設としての掘立柱建物跡や生産域としての水田跡が確認でき、また日常生活に欠くことができない土器などが大量に出土したことにより、当時の生活・文化を解明することができました。

本報告書が、本県の歴史研究の資料として広く活用されるとともに、埋蔵文化財に対する理解と关心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土品の整理・報告にいたるまでの間、香川県土木部及び地元関係各位には多大の御指導と御協力をいただきました。ここに深く感謝の意を表しますとともに、今後ともよろしく御支援賜りますようお願い申し上げます。

平成9年6月

香川県教育委員会

教育長 金森 越哉

例　　言

1. 本報告書は、県道三谷香川線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査事業報告書で、香川県高松市仮生山町甲1382番地外に所在する百相坂遺跡（もまいざかいせき）の報告を収録した。
2. 発掘調査は、香川県教育委員会が香川県土木部道路建設課からの依頼を受け、香川県教育委員会が調査主体となり、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当者として実施した。
3. 発掘調査は、調査対象面積(3,300m²)の試掘調査を平成6年10月4日に実施した。
本調査は、1,400m²を調査対象として、平成7年4月1日から6月30日まで実施した。
発掘調査の担当は以下のとおりである。
(試掘調査　文化行政課　國木健司)
本調査　藤好史郎・中西　昇・東条貴美
4. 調査にあたっては、次の機関や方々の協力を得た。記して謝辞を表したい。
(順不同、敬称略)
香川県土木部道路建設課、高松土木事務所、地元各自治会
5. 報告書の作成は、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが実施した。
本報告書の執筆は第1章第1節を廣瀬が担当し、それ以外を片桐が担当した。また、編集は片桐が担当した。
6. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。
 - (1) 挿図の縮尺は、掲載の図面内にスケールで示した。
 - (2) 方位は、国土座標第IV座標系の北を示す。
 - (3) 水平基準線の数値は、海拔高を示している。
7. 本書に用いている遺構記号は次のとおりである。

S A…柵列	S B…掘立柱建物	S D…溝
S K…土坑	S P…柱穴	S X…不明遺構
8. 挿図の一部は、国土地理院地形図 高松南部(1/25,000)を使用した。

目 次

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1

第2章 立地と環境

第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4

第3章 調査の成果

第1節 調査成果の概要	6
第2節 土層序	6
第3節 遺構・遺物について	9
1. 挖立柱建物	9
2. 構列	10
3. 土坑	12
4. 溝状遺構	13
5. 不明遺構（集石遺構）	13
6. 水田遺構	19
7. 柱穴出土遺物	23
8. 包含層出土遺物	26
第4節 まとめ	27

插図目次

第1図 調査区割図	1	第19図 S X07平・断面図	14
第2図 遺跡位置図	4	第20図 S X08出土遺物実測図	15
第3図 周辺遺跡位置図	5	第21図 S X08平・断面図	16
第4図 遺構平面図・土層柱状図	7~8	第22図 S X09出土遺物実測図	17
第5図 S B01平・断面図	9	第23図 S X09平・断面図	17
第6図 S B01出土遺物実測図	9	第24図 S X10平・断面図	17
第7図 S B02出土遺物実測図	10	第25図 S X10出土遺物実測図	17
第8図 S B02平・断面図	10	第26図 S X11出土遺物実測図	18
第9図 S P99平・断面図	11	第27図 S X11・12平・断面図	18
第10図 S P99出土遺物実測図	11	第28図 S X13出土遺物実測図	19
第11図 S A01平・断面図	11	第29図 S X13平・断面図	19
第12図 S K02平・断面図	12	第30図 水田跡平面図,水口平・断面図	20
第13図 S K02出土遺物実測図	12	第31図 水田跡畦畔土層断面図	21
第14図 S D01出土遺物実測図	13	第32図 B-2区南壁土層断面図	22
第15図 S X01出土遺物実測図	13	第33図 水田上層出土遺物実測図	23
第16図 S X03平・断面図	14	第34図 S P85平・断面図	23
第17図 S X06平・断面図	14	第35図 柱穴出土遺物実測図	24
第18図 S X03・06・07出土遺物実測図	14	第36図 包含層出土遺物実測図	26

表目次

第1表 周辺遺跡一覧表	5	第3表 出土遺物観察表	28~32
第2表 柱穴一覧表	25		

図版目次

図版 1 調査区遠景(北空中より)	(2)A-2区土層断面(南より)
図版 2 (1)B-2区遺構検出状況(真上より) (2)C-2区遺構検出状況(真上より)	図版 5 (1)B-2区遺構検出状況(南西より) (2)C-2区遺構検出状況(東より)
図版 3 (1)D-2・E-2区遺構検出状況(真上より) (2)E-2区遺構検出状況(真上より)	図版 6 (1)D-2区遺構検出状況(西より) (2)D-2・E-2区遺構検出状況(東より)
図版 4 (1)C-2区南壁土層断面(北より)	図版 7 (1)調査区遺構検出状況(西より)

	(2) S B01検出状況（東より）	(2) B-2 区南壁土層断面（西部分）
図版8	(1) S K02検出状況（北より）	図版17 (1) S P85検出状況（西より）
	(2) S A01 (S P99) 検出状況（北より）	(2) 発掘作業風景
図版9	(1) E-2 区遺構検出状況（東より）	図版18 (1) S D02検出状況（西より）
	(2) S X08検出状況（北より）	(2) S D02検出状況（東より）
図版10	(1) S X08完掘状況（北より）	図版19 (1) S D02土層断面（西より）
	(2) S X10検出状況（南東より）	(2) S D02土層断面拡大（西より）
図版11	(1) S X08・11・12検出状況（西より）	図版20 S B01出土遺物
	(2) S X11・12検出状況（北より）	S A01出土遺物
図版12	(1) S X08・13完掘状況（北より）	S K02出土遺物
	(2) S X13完掘状況（南西より）	図版21 S X08出土遺物
図版13	(1) 水田跡検出状況（東より）	図版22 S X10出土遺物
	(2) 水田跡検出状況（北より）	図版23 水田上層出土遺物
図版14	(1) 水田跡畦畔検出状況（南より）	柱穴出土遺物①
	(2) 水田跡水口検出状況（東より）	図版24 柱穴出土遺物②
図版15	(1) 水田跡水口土層断面拡大（南東より）	包含層出土遺物①
	(2) 水田跡水口土層断面（南東より）	図版25 包含層出土遺物②
図版16	(1) B-2 区南壁土層断面（東部分）	

付 図 目 次

付 図 百相坂遺跡 遺構平面図

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

今回報告する百相坂遺跡は香川県による「県道三谷香川線道路改良事業」に先立ち、発掘調査を実施した遺跡である。

香川県教育委員会事務局文化行政課は大規模な県道バイパス建設予定地内の試掘調査を適宜国庫補助を含めて実施し、埋蔵文化財の有無等を確認し、適切な措置が執られてきた。

百相坂遺跡については、新旧国道193号線を繋ぐ県道計画地内で確認された遺跡で、当初計画地内には周知の埋蔵文化財包蔵地は所在していないが、南方の丘陵上には全長51mを計り、剝抜式石棺の出土を伝える船岡山古墳が所在しており、集落関係の遺跡が所在している可能性は十分に考えられた。そのため路線内を平成6年度（8月23日）の分布調査を実施したところ中央西寄りの位置に微高地が所在し、遺跡所在の可能性が認められることを確認した。

分布調査の結果をもとに路線内3,300m²が調査対象となり、平成6年度（平成6年10月4日）の文化行政課による試掘調査で、1,400m²について保護措置が必要と確認された。香川県土木部道路建設課と協議の結果、1,400m²を調査対象面積とし、平成7年度（平成7年4月1日から6月30日）に香川県教育委員会が調査主体となり、（財）香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当者として発掘調査を実施した。

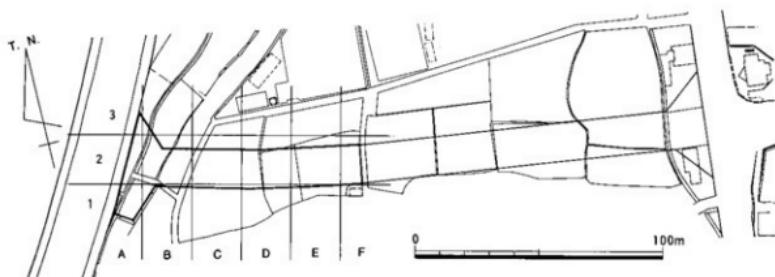
第2節 調査の経過

発掘調査は平成7年4月1日に開始し、平成7年6月30日に終了した。

調査の方法は直営方式で実施した。

調査グリッドは、調査対象地が直線的に東西に延びる道路予定地であるため、道路の中心線を基準として設定した。基準点は、調査区両端の道路中心点を直線で結び、8m南の平行線上で西端中心杭から直行する地点に置き、東西を西からアルファベットでA～Fを付し、南北を南からアラビア数字1～3とした。

百相坂遺跡の発掘調査を調査日誌抄を基に概略すると、以下の様になる。



第1図 調査区割図

平成7年4月1日から事前の打ち合わせ及び事前準備を開始し、4月15日から調査区に安全柵を打設する。4月25日に事務所が立ち上がり、26日から重機で試掘調査の少ない東部について予備調査を行い、その後西部から表土掘削を開始する。27日から作業員の就労を開始し、本格的に発掘調査を開始する。

発掘調査は調査グリッドの西部から開始する。

調査区中央部で僅かな微高地を検出し、東西に緩やかな傾斜を持つ旧地形を検出した。遺構は、ほぼその微高地上で検出した。

遺構は、西部で中世の水田遺構を検出し、ほぼ中央部で中世の掘立柱建物・土坑・溝などを検出した。

調査対象面積が1,400m²ということもあり、1回の航空測量を6月14日に実施した。

現場での発掘作業は平成7年6月23日に終了し、その後残務整理及び調査区埋め戻し・事務所撤去等を行い、6月30日に発掘調査を終了した。

発掘調査体制は下記のとおりである。

平成7年度

文化行政課

総括	課長	高木 尚
	課長補佐	高木 一義
総務	係長	山崎 隆 (6.1 ~)
	係長	源田 和幸 (~ 5.31)
	主査	星加 宏明
	主事	高倉 秀子
埋蔵文化財	副主幹	渡部 明夫
	主任技師	森下 英治
	技師	塩崎 誠司

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

調査

総括	所長	大森 忠彦
	次長	真鍋 隆幸
総務	参事(土木)	別枝 義昭
	係長(事務)	前田 和也
	主査	西村 厚二
	参事	糸目 末夫
	係長	藤好 史郎
	文化財門限	中西 昇
	調査技術員	東条 貴美

整理作業は平成9年1月1日より開始し、平成9年1月31日に終了した。

整理作業体制は下記のとおりである。

平成8年度

文化行政課

総括	課長	藤原 章夫
	課長補佐	高木 一義
総務	係長	山崎 隆 主査
	主事	星加 宏明 打越 和美

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

整理

総括	所長	大森 忠彦
	次長	小野 善範
総務	係長(事務)	前田 和也
	主任主事	西川 大
	文化財門限	廣瀬 常雄

埋蔵文化財 副主幹 渡部 明夫

文化財専門員	片桐 孝浩
整理補助員	岡崎江伊子
	小畠三千代
	岩井 弘恵
	合田 和子
整理作業員	岡野 雅子
	前田 好美
	山上 真理
	松尾 優子

第2章 立地と環境

第1節 地理的環境

百相坂遺跡は高松平野南部、高松市仏生山町甲1382番地外に所在する。香川町浅野に近接しており、香東川の1km程東に位置する。

上佐山・日山など南方丘陵の山裾部にあたり、背後にひかえた船岡山より緩傾斜の微高地を中心広がる。

本遺跡周辺は香川郡川東西部を扇頂とする香東川の扇状地上にあたり、現地表の標高は約48mを計る。大池に連なる地割りの乱れから、旧香東川の氾濫原を一部含むと考えられ、発掘調査においても調査区西部地表下に厚い砂疊層の堆積を確認した。



第2図 遺跡位置図

第2節 歴史的環境

当遺跡周辺はこれまでに発掘調査が行われていなかったこともあり、周辺の遺跡については不明な部分が多い。

旧石器・縄文時代の遺構・遺物は確認されていない。

弥生時代の遺構・遺物はこれまで確認されていなかったが、今回の調査で弥生時代後期前葉の遺物が少量出土している。しかし、それに伴う遺構は溝（S D02）のみで、依然実態は不明である。

古墳時代には周辺で数基の古墳が確認されている。古墳時代前期では南側背後の独立丘陵山頂部に前方後円墳として著名な船岡山古墳が築造されている。この古墳は全長51mで、後円部は径22m、高さ1.25m、前方部は長さ29m、高さ1.2m、先端部幅12mを測る。同古墳出土の可能性が高いと考えられている削抜式石棺が浅野小学校に保管されている。周辺より埴輪片も採集されている。古墳時代後期では船岡山から旧国道193号線を挟んで東には、船岡古墳が所在し、横穴式石室の一部と思われる石組みが残っている。

古代では北へ500m程に奈良～平安時代の古瓦が出土する百相廃寺が所在する。現在の舟山神社に相当し、神社南西には礎石が残る。

中世以降では、源平屋島の合戦で源氏方に属した河西左エ門輝貞の末裔、河西三郎左エ門を城主とした百相城跡があり、堀・石垣の痕跡が残る。同じく、大野新太夫有高が構えた居館跡を大野南城跡と推定されている。香川町大野の代々大野氏が信仰している石清水八幡神社東500mあたりが城跡とされる。大野北城跡は室町時代に入り、摂津より渡ってきた佃氏が香川町大野に構えた居館とされる。



第3図 周辺遺跡位置図

第1表 周辺遺跡一覧表

① 百相坂遺跡	⑪ 平石上1号墳	㉑ 百相城跡
② 凹原遺跡	⑫ 平石上2号墳	㉒ 田村神社遺跡
③ 日暮・松林遺跡	⑬ 小日山1号墳	㉓ 百相麻寺
④ 多肥松林遺跡	⑭ 小日山2号墳	㉔ 船岡山古墳
⑤ 一角遺跡	⑮ 雨山南古墳	㉕ 船岡古墳
⑥ 空港跡地遺跡	⑯ 大の馬場古墳	㉖ 浅野万塙古墳
⑦ 上林(淨源寺)城跡	⑰ 矢野面古墳	㉗ 浅野八王子古墳
⑧ 拝師庵寺	⑱ 三谷三郎池C遺跡	㉘ 大野北城跡
⑨ 多肥庵寺	⑲ 三谷三郎池西岸塗跡	㉙ 大野南城跡
⑩ 加摩羅神社古墳	⑳ 三谷三郎池遺跡	

第3章 調査の成果

第1節 調査成果の概要

百相坂遺跡は高松市仏生山町に所在する遺跡で、国道193号バイパスから東部に延びる県道三谷香川線道路改良工事予定地内の西部、1,400m²を調査対象地としている。

地形的には、南に位置する船岡山から延びる微高地部分と旧香東川の氾濫原である西部の埋没自然流路からなる。微高地は調査区中央をピークとし、東と西に緩やかな傾斜を持つ旧地形が、水田化に伴う削平により平坦化している。そのため調査区中央部の微高地上で検出した遺構はやや希薄で、東西の傾斜部分においてかなり残りの良い遺構を検出した。

今回の調査では、微高地上（C-2・D-2区）で、中世の掘立柱建物・溝・柱穴・集石遺構を検出した。また、畦畔を隔てた東傾斜部分（D-2・E-2区）では、古代から中世の掘立柱建物・柵列・土坑・集石遺構などを検出し、調査区最東端では弥生時代の溝を検出した。調査区西端のA・B列では旧香東川の自然流路を確認し、B-2区ではその埋没後に営まれた中世の水田遺構を検出した。

出土遺物には弥生時代から中世にかけてのものがあり、周辺において連綿と生活が営まれていたことが窺える。

第2節 土層序

基本土層をみると、最西部地区（A-2区）・西部地区（B-2区）・中央部地区（C-2・D-2区）・東部地区（E-2・F-2区）の4地区で違うことがわかる。

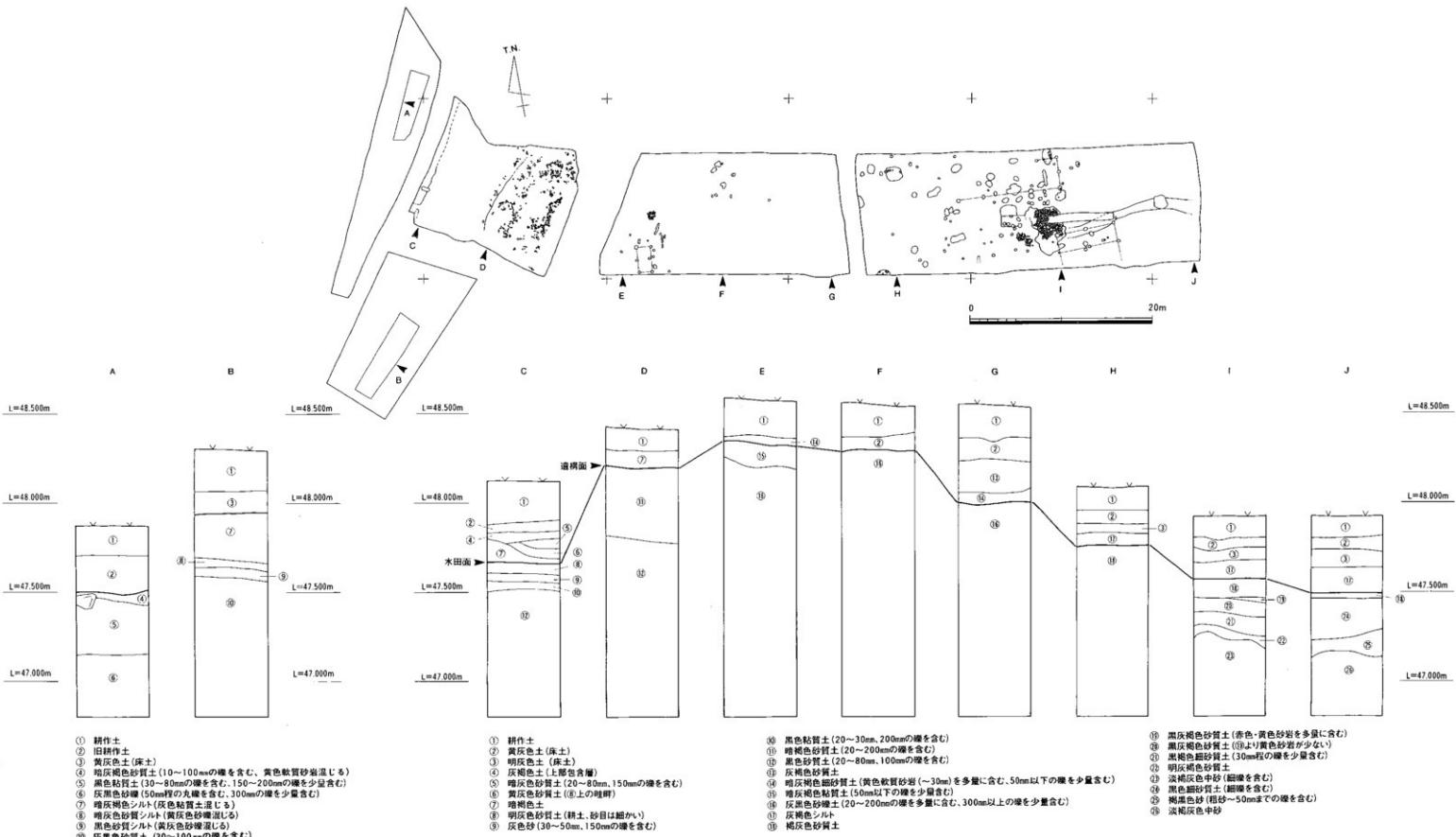
まず最西部地区（第4図土層A・B）では削平が顕著で、耕作土及び旧耕作土直下で砂礫層になる。この砂礫層は旧香東川の氾濫による堆積と考えられ、その痕跡が現地表に残る水田畦畔に認められる。

西部地区（第4図土層C）では、耕作土・床土直下で、弥生時代から中世にかけての包含層を確認し、さらにその包含層下では水田耕土と考えられる灰色砂質土層を確認した。しかし西部（第4図土層D）では最西部地区で確認された疊層が耕作土直下で確認できる。したがってこの包含層及び水田耕土層は最西部地区で確認された疊層と西部地区東半で確認した疊層の間の凹地に堆積していることがわかる。

この最西部地区及び西部地区では水田遺構以外検出していない。

中央部地区（第4図土層E・F・G）では、耕作土・床土直下で下層の疊層が一部確認できる部分もあるが、そのほとんどは灰褐色砂質土層が全面に広がり、その上面で遺構が検出できる。しかし、検出した遺構は希薄でしかも検出面からの深さではなく、かなり削平を受けているものと考えられる。

東部地区（第4図土層H・I・J）では、中央部地区から徐々に傾斜しており、最深部で厚さ約50cm程の堆積が確認できる。耕作土直下に遺物包含層である黒褐色もしくは灰褐色砂質土層が確認でき、その包含層下では砂層を基本とした堆積土が確認できる。この遺物包含層下で弥生時代後期以前と考えられる溝を検出した。



第4図 道構平面図・土層柱状図

第3節 造構・遺物について

調査区で検出した遺構はほとんどが東部緩傾斜面部分に集中しているため、残りが良いが、中央部はかなり削平を受けているものと思われ、残りが悪い。

遺構には掘立柱建物2棟、柵列1基、土坑2基、溝2条、不明遺構14基（その内集石遺構4基）、水田遺構、多数の柱穴がある。

1. 掘立柱建物

掘立柱建物は調査区中央部と東部緩傾斜面で2棟検出した。

S B01（第5図）

S B01は調査区中央部（C-2区）で検出した掘立柱建物で、規模は梁間1間×桁行2間（ $1.45 \times 2.76m$ ）である。柱穴は平面形態が円形を呈し、直径約0.30m前後で、検出面からの深さは約0.15m前後を計る。かなり削平を受けているものと思われる。建物は南北棟のもので、主軸（南北）は真北から 7.5° 東偏する。

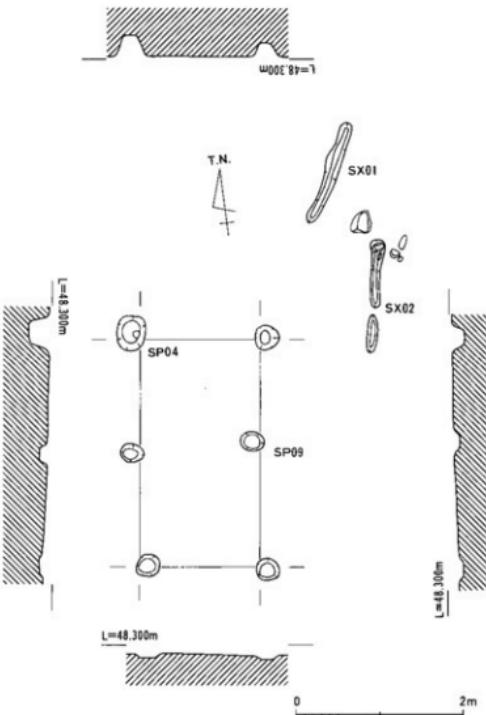
建物北東部にほぼ同方向に流路を取る溝（S X02）を検出しておおり、S B01の雨落ち溝かあるいは周囲を区画する溝の可能性が考えられる。

柱穴S P04から須恵器壺・壺が出土している（第6図）。

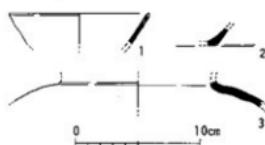
1・2は須恵器壺である。底部はヘラ切りされ、体部は直線的に外上方に延びる。3は須恵器壺で、おそらく短頸壺になるものと思われる。

柱穴S P09から土師器杯などが出土している（第35図）。89は土師器杯である。底部はヘラ切りで、体部は直線的に延びる。

時期は柱穴出土遺物から古代と考えられ、S P04出土遺物の須恵器壺から9世紀後半から10世紀前半頃と思われる。



第5図 S B01平・断面図



第6図 S B01出土遺物実測図

S B02 (第8図)

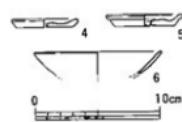
S B02は調査区東部(E-2区)緩傾斜面で検出した掘立柱建物で、規模は梁間2間×桁行(2)間(6.55×3.45 m)の縦柱建物である。柱穴は平面形が円形を呈し、直径約0.40m前後で、検出面からの深さは約0.40m前後を計る。傾斜部分であるために、柱穴の残りが良い。建物は南北棟のもので、主軸(南北)は真北から 3.0° 西偏する。

建物北西部はS X08によって切られている。

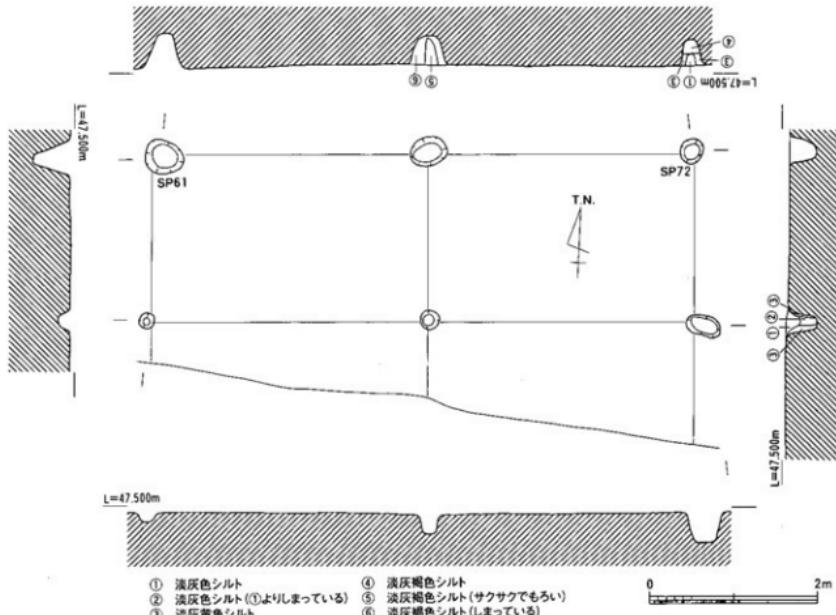
柱穴S P61から土師器小皿・壺(4・6)が、S P72から土師器小皿(5)が出土している(第7図)。

4・5は土師器小皿で、両者とも口径6.0cm以下の小振りのものである。底部はヘラ切りされており、体部は外上方に短く延びる。6は土師器壺である。

時期は柱穴出土遺物から中世と考えられ、S P61・72出土遺物の土師器壺の小振り化の傾向から、14世紀頃と思われる。



第7図
S B02出土遺物実測図



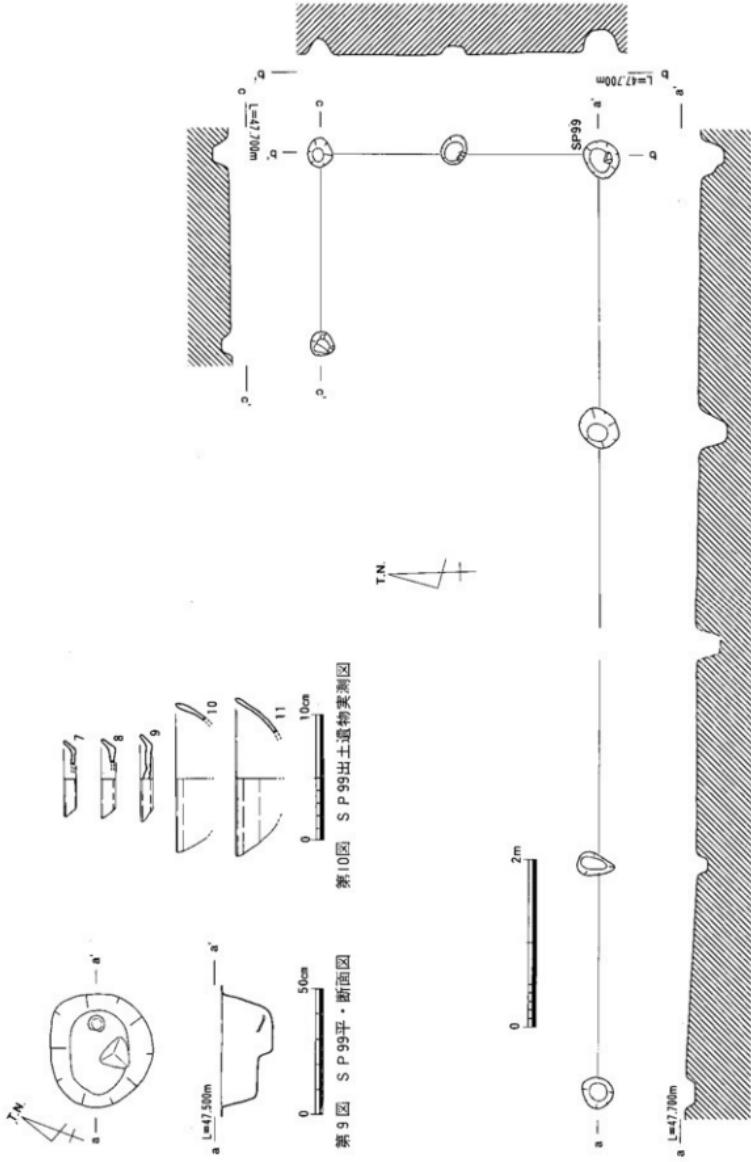
第8図 S B02平・断面図

2. 檻列

檻列は調査区東部で、1基検出した。

S A01 (第11図)

S A01は調査区東部(E-2区)の緩傾斜面で検出した檻列で、東側が「コ」の字になるものである。南側の柱間長と東及び北側の柱間長に差がある。この柱間長の差と北西部が検出で



第10図 S P 99出土遺物実測図

第11図 S A 01平・断面図

きなかったことにより、ここでは柵列とした。南側は柱間長が約3.00m前後で、4間(11.23m)ある。柱穴は平面形態がほぼ円形を呈し、柱穴径が直径約0.40m前後で、検出面からの深さ約0.30m前後を計る。東側は柱間長が1.70m前後で、2間(3.34m)ある。柱穴は平面形態がほぼ円形を呈し、柱穴径が直径約0.30m前後で、検出面からの深さ約0.20m前後を計る。北側は柱間長が2.30mで、1間(2.30m)が確認されている。柱穴は平面形態がほぼ円形を呈し、柱穴径が直径約0.30m前後で、検出面からの深さ約0.15m前後を計る。柵列の主軸(南北)は真北から2.0°東偏する。

柱穴S P99(第9図)から土師器小皿・坏・椀が出土している(第10図)。

7~9は土師器小皿である。口径約6.0~7.0cmで、S B01出土の土師器小皿に比べるとやや大振りのものである。底部はヘラ切りされ、体部もやや長い。10は土師器坏、11は土師器椀である。

時期は柱穴出土遺物から中世と考えられ、S P99出土遺物の土師器小皿がS B01出土の土師器小皿よりやや大振りであることと土師器椀を伴うことから13世紀前半頃と思われる。

3. 土坑

土坑は調査区中央部で、2基検出した。

S K01

S K01は調査区中央部(D-2区)南端で検出した土坑で、南半が調査区外であるために、検出平面形態は不明である。

土坑内から土師器が出土しており、おそらく中世と思われる。

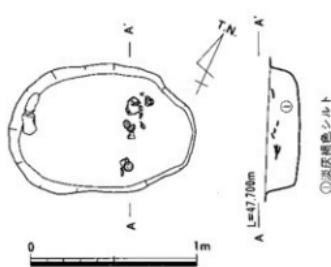
S K02(第12図)

S K02は調査区中央部(D-2区)で検出した土坑で、検出平面形態は橢円形を呈する。規模は長幅1.11m、短幅0.79m、検出面からの深さ0.20mを計る。埋土は淡灰褐色シルトの単層である。

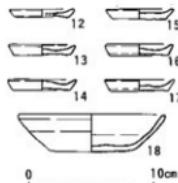
遺物は土坑内の東側の上位に集中して出土した。遺物は土師器小皿・坏である(第13図)。

12~17は土師器小皿である。口径約5.0~5.5cmで、S B01出土の土師器小皿と同様に小振りである。底部はヘラ切りされ、体部は短く外上方に延びる。18は土師器坏である。

時期は出土遺物から中世と考えられ、土坑内出土遺物の土師器小皿の口径が小振りであることから14世紀と思われる。



第12図 S K02平・断面図



第13図 S K02出土遺物実測図

4. 溝状遺構

溝状遺構は調査区東部の緩傾斜地で、2条検出した。

S D 01

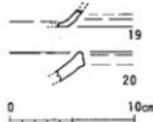
S D 01は調査区東部（E - 2 区）の緩傾斜面で検出した溝で、ほぼ南北に流路を取る。かなり削平を受けているものと思われ。検出長は約2mと短い。

溝内から土師器壺、土師質土鍋などが出土している（第14図）。

19は土師器壺である。底部はヘラ切りされ、体部は直線的に外上方に延びる。20は土師質土鍋である。

時期は出土遺物より14世紀頃と思われる。

検出した位置は、ちょうどS A 01内にあり、ほぼ同方向を向く。しかし、出土遺物から同時期でないことが確認できる。



第14図
S D 01出土遺物実測図

S D 02

S D 02は調査区最東部（E - 2 + F - 2 区）の緩傾斜面で検出した溝で、南西から北東方向にやや東に屈曲しながら流路を取るものである。ちょうど微高地の延びる方向とほぼ同じで、微高地部の縁辺部に平行して掘削されたものと推測できる。検出面は東部緩傾斜面上に堆積した包含層を除去後に検出した。規模は天幅約1.30m、検出面からの深さ約0.55mを測る。検出長は約13.00mである。

時期は遺構内から遺物が出土していないので不明であるが、東部緩傾斜面上に堆積した包含層から弥生時代後期の土器片が出土していることからS D 02は弥生時代後期以前であることがわかる。

5. 不明遺構（集石遺構）

不明遺構はそのほとんどが調査区東部の緩傾斜地に集中しており、14基検出した。

S X 01（第5図）

S X 01は調査区中央部（C - 2 区）で検出した溝状を呈する不明遺構である。S B 01の北東方向で確認されている。かなり削平を受けているものと思われ、検出長は約1.30mと短い。

遺構内から須恵器壺が出土している（第15図）。

21は須恵器壺である。颈部は直線的に外上方に延び、口縁部を外方に屈曲させる。

時期は古代と思われる。



第15図 S X 01出土遺物実測図

S X 02（第5図）

S X 02は調査区中央部（C - 2 区）で検出した溝状を呈する不明遺構である。S B 01とほぼ同方向に流路を取り、S B 01の東約1.3mの位置で検出した。かなり削平を受けているものと思われ、検出長は約1.35mと短い。

遺構内から土師質土器が出土している。

時期は出土遺物が小片であるために明確な時期は不明であるが、S B 01とほぼ同方向にあることから古代と考えられ、S B 01の雨落ち溝かあるいは区画溝と考えられる。

S X 03 (第16図)

S X 03は調査区中央部（D - 2 区）で検出した不明遺構で、検出平面形態が隅丸方形状を呈するものである。北西部に僅かに10~30cm程度の川原石の集石が確認できる。規模は長幅約1.74m、短幅約1.46m、検出面からの深さ約0.12mを計る。

遺構内から土師器小皿・壺、土師質土釜などが出土している（第18図）。

22は土師器小皿である。口径6.2cmと小振りで、体部も短い。23は土師器壺である。

時期は出土遺物から14世紀頃と思われる。

S X 04

S X 04は調査区中央部（D - 2 区）で検出した不明遺構で、検出平面形態が歪な長方形を呈するものである。規模は長幅約1.10m、短幅約0.70m、検出面からの深さ約0.16mを計る。

遺構内から瀬戸焼、土師器などが出土している。

時期は出土遺物から近世で、18世紀頃と思われる。

S X 05

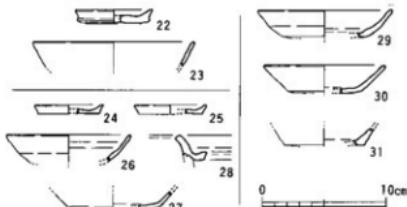
S X 05は調査区中央部（D - 2 区）で検出した不明遺構で、検出平面形態が歪な楕円形を呈するものである。規模は長幅約1.68m、短幅約0.72m、検出面からの深さ約0.25mを計る。

遺構内から陶器、磁器などが出土している。

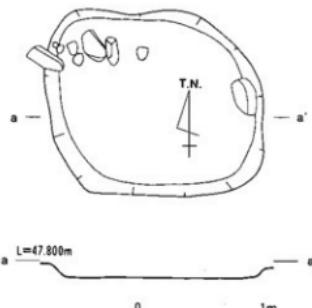
時期は出土遺物から近世と思われる。

S X 06 (第17図)

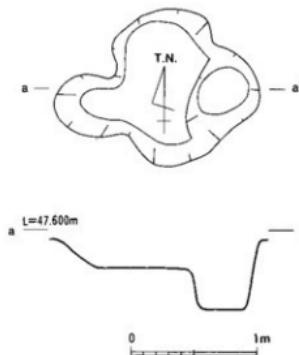
S X 06は調査区東部（E - 2 区）の緩傾斜面で検出した不明遺構で、検出平面形態が歪な円形を呈するものである。東端に柱穴状の落ち込みが確認でき



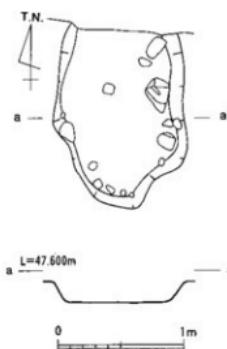
第18図 S X 03 - 06 - 07出土遺物実測図



第16図 S X 03平・断面図



第17図 S X 06平・断面図



第19図 S X 07平・断面図

る。規模は長幅約1.70m、短幅約1.25m、検出面からの深さ約0.30mを計る。また、柱穴状の落ち込み部分はほぼ円形を呈しており、直径約0.50m、深さ約0.30mを計る。

遺構内から土師器小皿・壺、土師質土釜、備前焼が出土している（第18図）。

24・25は土師器小皿である。口径が6cm以下のもので、体部も短く外上方に延びる。26・27は土師器壺である。底部はヘラ切りされ、体部はやや内彎気味に外上方に延びる。28は土師質土釜である。鍔はやや小振りではあるが端部がシャープに作られ、立ち上がりもやや内彎しながら内傾するが、しっかりと作られている。

時期は出土遺物から14～15世紀頃と思われる。

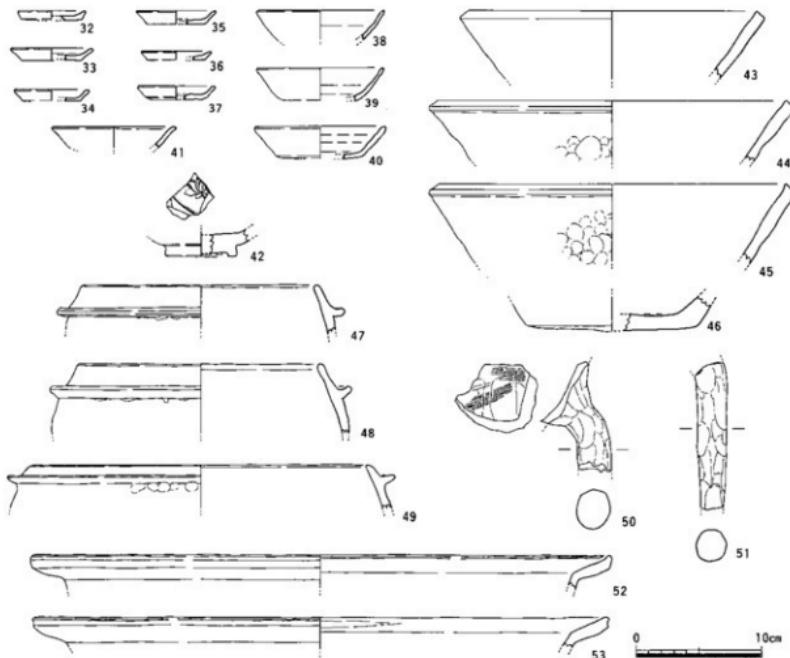
S X 07（第19図）

S X 07は調査区東部（E-2区）の緩傾斜面で検出した不明遺構で、検出平面形態は北側が調査区外に延びており、不明である。掘り方内の周囲に10～30cm程度の川原石が確認できる。検出平面での規模は長幅約(1.43)m、短幅約1.05m、検出面からの深さ約0.15mを計る。

遺構内から土師器小皿・壺、土師質土釜などが出土している（第18図）。

29～31は土師器壺である。底部はヘラ切りされ、体部は直線的に外上方に延びる。

時期は出土遺物から14世紀頃と思われる。



第20図 S X 08出土遺物実測図

S X 08 (第21図)

S X 08は調査区東部 (E - 2 区) の緩傾斜面で検出した不明遺構で、検出平面形態は亜である。掘り方は浅く、掘り方内の中央部から北側にかけて多量の集石を確認した。数個の花崗岩などを除けばそのほとんどが砂岩で、10~50cm程度の砂岩が敷き詰められた状態で検出した。塙の下部構造の可能性が考えられる。規模は長幅約5.23m、短幅約2.75m、検出面からの深さ約0.15mを計る。

遺構内から土師器小皿・壺、土師質土釜・土鍋・こね鉢、青磁、白磁などが出土している (第20図)。

32~37は土師器小皿である。底部はヘラ切りされ、体部は直線的に外上方に延びる。口径が6cm以下のものと以上のものがあり、前者は体部が短く、後者は体部がやや長い。38~40は土師器壺である。底部はヘラ切りされ、体部は直線的に外上方に延びる。41は口禿白磁壺である。口縁端部がやや外反し、この部分のみ釉がかかっていない。42は青磁碗である。内面見込み部



第21図 S X 08平・断面図

分に花文が施されている。43~46は土師質こね鉢である。底部は平底で、体部は直線的に外上方に延びる。口縁部は方形のまま終わらせ、端部内面を小さくシャープに摘み出す。体部外面には指頭痕が顕著に認められる。47~51は土師質土釜である。鍔がかなり退化しており、小さく短い。立ち上がりは長いものと短いものがあり、長いものの口縁端部は丸くおさめられている。52・53は土師質土鍋である。頸部の屈曲はシャープに作られ、口縁端部内面は上方に小さく摘み出している。

時期は土師器小皿に口径の大・小がみられることや土師質土釜の形態から13世紀後半から14世紀頃と思われる。

S X 09 (第23図)

S X 09は調査区最東部 (F - 2 区) で検出した不明遺構で、検出平面形態は歪な隅丸方形を呈する。規模は長幅約1.45m、短幅約1.30m、検出面からの深さ約0.10mを計る。

遺構内から須恵器壺・壺、土師質土器などが出土している（第22図）。

54は須恵器壺である。体部は直線的に外上方に延び、口縁端部は外方に僅かに屈曲させる。

時期は出土遺物から9世紀後半から10世紀前半頃と思われる。

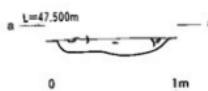
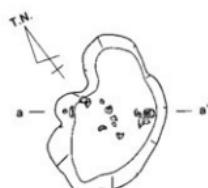


第22図
S X 09出土遺物実測図

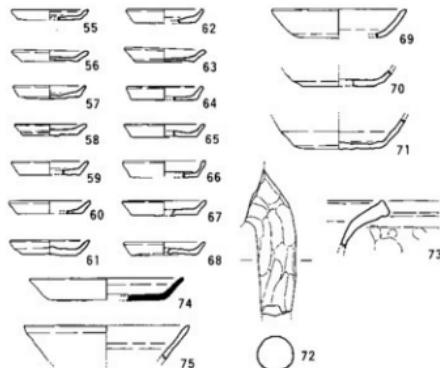
第23図 S X 09平・断面図

S X 10 (第24図)

S X 10は調査区東部 (E - 2 区) の緩傾斜面で検出した不明遺構で、検出平面形態は歪な円形を呈する。規模は長幅約1.25m、短幅約0.90m、検出面からの深さ約0.10mを計る。



第24図 S X 10平・断面図



第25図 S X 10出土遺物実測図

埋土は単灰褐色シルトの单層である。

遺構内のはば中央部にまとまって土師器小皿・壺、土師質土釜・土鍋などが出土している(第25図)。

55～68は土師器小皿である。底部はヘラ切りされており、体部はほぼ直線的に外上方に延びる。口径は6.0～6.5cm程度で、体部もやや長い。69～71は土師器壺である。底部はヘラ切りされており、体部はやや内彎気味に外上方に延びる。72は土師質土釜の脚である。73は土師質土鍋である。やや頸部の屈曲が緩やかになっている。74は須恵器皿である。底部はヘラ切りされており、体部は直線的に外上方に延びる。口径12.4cmと小型の皿である。75は瓦質焼成された壺で、69・70の土師器壺に比べると口径がやや大振りで、やや古相を呈する。76は土師質甕である。

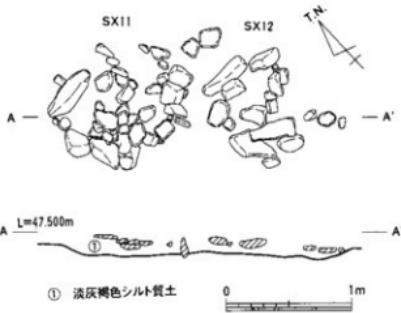
時期は10世紀頃の遺物も混じるが、土師器小皿の形態や75の壺などから13世紀後半頃と思われる。

S X11(第27図)

S X11・12は調査区東部(E-2区)の緩傾斜面で検出した集石遺構である。S X08の西側で、浅い掘り方状の落ち込みのなかに2つの集石を検出した。ここでは北側の集石をS X11とし、南側の集石をS X12とした。

S X11は約10～40cm程度の砂岩長円礫が東西約1.1m、南北約0.9mの範囲に不規則に集石している。この集石遺構の性格は不明である。

第26図 S X11出土遺物実測図



第27図 S X11・12平・断面図

集石から土師器小皿・壺、土師質土釜が出土している(第26図)。

77は土師器小皿である。底部はヘラ切りされ、体部は直線的に外上方に延びる。口径はやや大振りで、体部もやや長い。

時期は出土遺物から13世紀後半から14世紀頃と思われる。

S X12(第27図)

S X12は約10～40cm程度の川原石が東西約0.7m、南北約0.9mの範囲に不規則に集石している。この集石遺構の性格は不明である。

集石から土師器小皿・壺、黒色土器、染付磁器が出土している。

時期は出土遺物からみると近世と考えられるが、染付磁器が混入を考えると、S X11と同時期の13世紀後半から14世紀頃と思われる。

S X13(第29図)

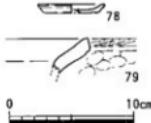
S X13は調査区東部(E-2区)の緩傾斜面で検出した不明遺構で、検出平面形態は南側が試掘トレンチで壊されているために不明である。現存平面形態での規模は南北約(1.23)m、東

西約1.74m、検出面からの深さ約0.13mを計る。

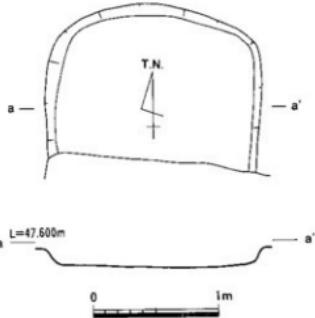
遺構内から土師器小皿・壺、土師質土釜・土鍋などが出土している（第28図）。

78は土師器小皿である。底部はヘラ切りされており、体部は直線的に外上方に延びる。口径は5.0cmを切り、体部も短い。79は土師質土鍋である。

時期は出土遺物から14世紀頃と思われる。



第28図 S X 13出土遺物実測図



第29図 S X 13平・断面図

S X 14

S X 14は調査区中央部（C - 2 区）で検出した集石遺構である。5～15cm程度の川原石が東西約0.9m、南北約1.0mに不規則に集石しているだけで、掘り方の確認はできなかった。この集石遺構の性格は不明である。

時期は集石から遺物が出土していないために不明である。

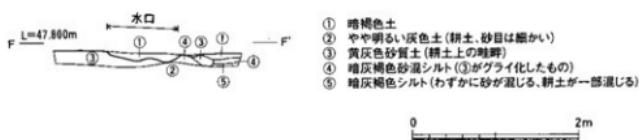
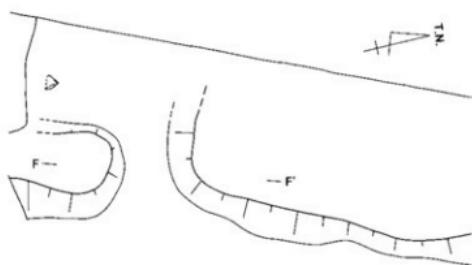
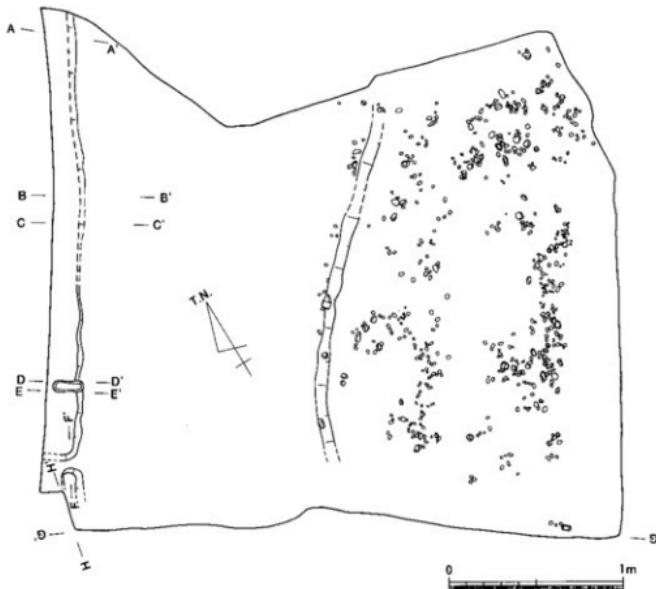
6. 水田遺構

調査区西部（B - 2 区）の埋没河川上において水田遺構を検出した。検出面は耕作土・床土直下で、西部分では弥生土器を包含する黒色粘質土が覆い、それ以外では弥生土器及び中世の遺物を包含する暗褐色土層並びに水田耕作土を覆う暗灰色砂混じり砂質土層直下で検出した。かなり削平を受けているものと思われ、水田遺構の検出範囲はB - 2 区の西半分の埋没河川上の堆積層部分のみの検出である。

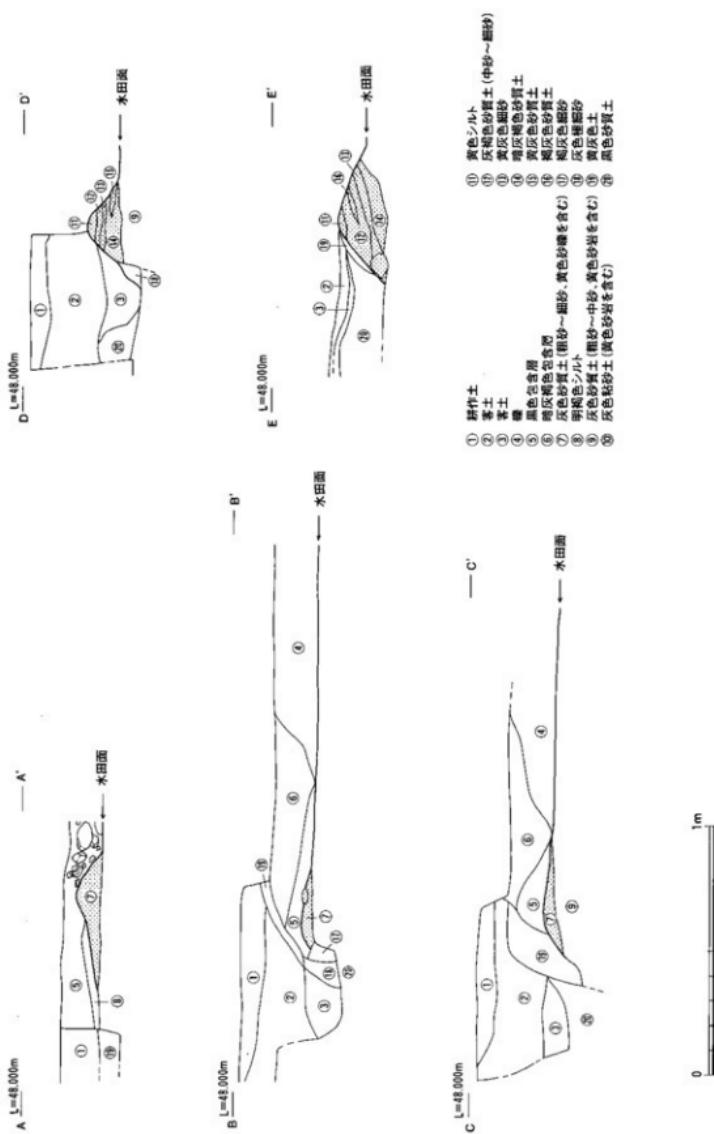
その堆積土の範囲は東西幅約7.5m、南北幅約9.5mを測る。西調査区界では隣接する水路のコンクリート擁護壁の工事により、部分的に削られているが、畦畔の東側部分と水口を検出した。この西畦畔は残存部をつなぐと検出総延長13.3mを測り、畦畔下端幅は残存状況が良い水口南側で、約60cmを測る。畦畔は第31図畦畔土層図から砂質土を基本とした土層が版築状に認められ、水田方向から盛り上げられていることがわかる。水口部分の幅は約50cmを測り、それに伴う施設は検出していない。また、畦畔上面と水田面との比高差は、4～10cmを測るが、北半の多くは削平されており、辛うじて下端が残っているにすぎない。水田の東側では下層の砂礫層が確認できることから南北方向の東側畦畔ではなく、南北を区画する東西方向の畦畔も検出できなかった。そのため一筆の範囲は不明である。検出面積は67.1m²を測り、それ以上に南北及び東側に広がる可能性がある。なお西側水路を隔てたA - 2 区では、水田耕作土相当層が削平されており、水田面は検出できなかった。

検出水田域西部の水田耕土及び畦畔直上を部分的に覆っていた暗褐色シルト・黒色粘質土には、少量の弥生時代後期の遺物が包含されていたが、他の耕土の大半を覆う砂礫層からは須恵器・土師器などが包含されている（第33図）。

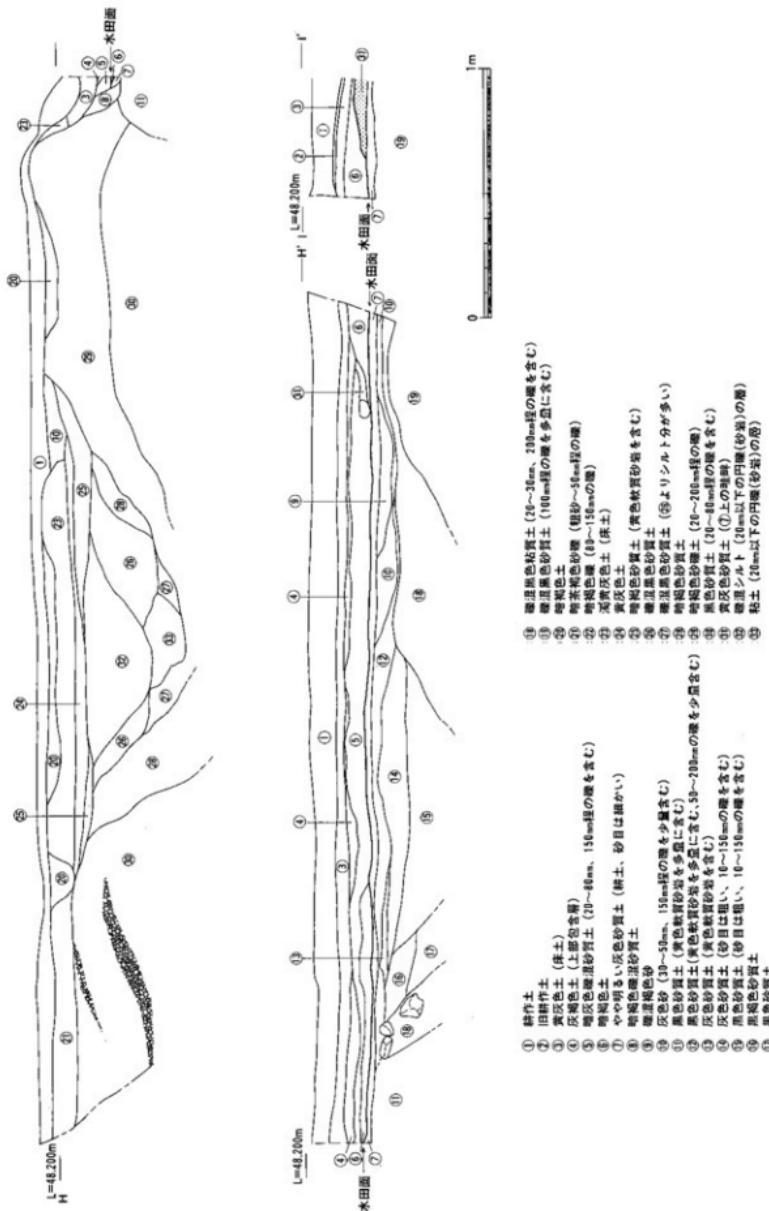
80～82は弥生時代の壺である。80は口縁端部を上下に拡張し、拡張部外面に3条の沈線を施している。81は長頸壺の頸部と思われ、頸部下端に右上がりの刻み目が施されている。82は細



第30図 水田跡平面図、水口平・断面図

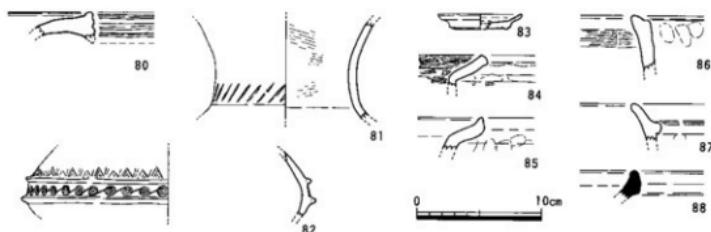


第31図 水田跡柱状土層断面図



第32図 B-2 区南壁土層断面図

頸壺である。体部最大径部分に2条の凸帯を持つもので、上位凸帯の上部に線鋸歯文を配し、凸帯間にS字状スタンプ文（連続渦文）を配している。これらの時期は弥生時代後期前葉頃の遺物である。83は土師器小皿である。底部はヘラ切りされ、体部は直線的に外上方に延びる。84～86は土師質土鍋である。85は口縁端部を上方に摘み上げる。86は鐸のつかない土釜の形態のものである。87は土師質土釜である。88は東播系こね鉢である。



第33図 水田上層出土遺物実測図

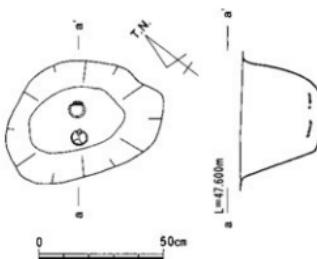
7. 柱穴出土遺物（第35図）

柱穴は、そのほとんどが調査区東部（D-2・E-2区）を中心に検出した。総数111個と少なく、検出面からの深さにバラツキがあることから、かなり削平を受けているものと思われる。柱穴には直径約10～50cm程度のものとかなり大きさに違いがあり、平面形態も隅丸方形に近いものから円形のものもある。

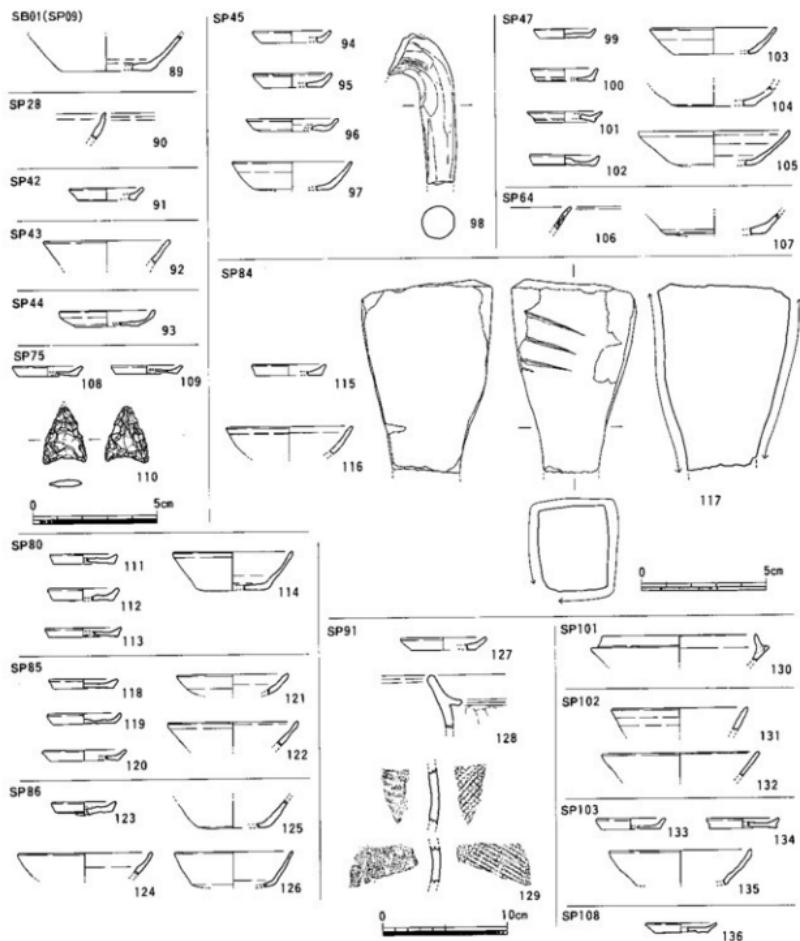
S P 85は平面形態が正な楕円形を呈する柱穴である。規模は長幅約0.64m、短幅約0.47m、検出面からの深さ約0.32mを測るしっかりした柱穴である。柱穴内の底部に近い部分で、2個の土師器小皿をほぼ水平に置いてあるのを確認した。出土遺物はこの他に土師器小皿・坏が出土しており、統計土師器小皿3個と土師器坏1個が出土していることになる。

このような土師器小皿・坏がセットで出土する例は、他の柱穴S P 45・47・75・80・85・86などでも確認できる。それらには土師器小皿と土師器坏の個数に違いがあるものの、土師器小皿を2～4個、土師器坏を1～3個と土師器小皿と土師器坏がセットで出土している例が多いことがわかる。

全ての柱穴の時期は第2表に示したとおりである。それをみると古代から中世まであり、特に時期が決定できるものには、9世紀後半から10世紀前半までの時期と14世紀頃の二時期がある。



第34図 S P 85平・断面図



第35図 柱穴出土遺物実測図

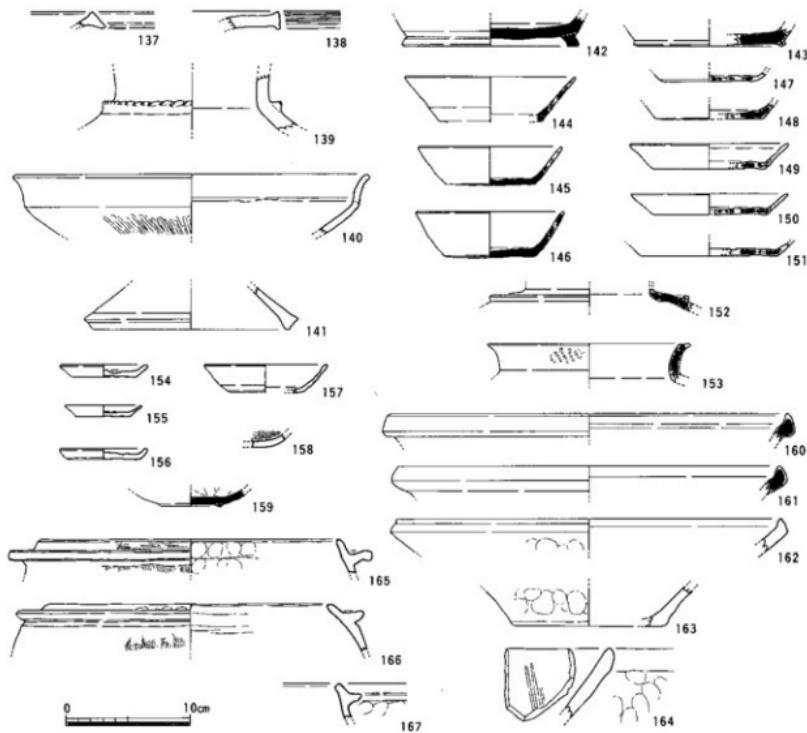
第2表 柱穴一覧表

遺物番号	出土遺物	土色・質	時期	遺物番号	出土遺物	土色・質	時期
SP01	暗褐色シルト			SP56	土師器	灰褐色シルト	中世
SP02	暗褐色シルト			SP57	土師器小皿	灰褐色シルト	中世
SP03	暗褐色シルト			SP58	須恵器	灰褐色シルト	古代
SP04	須恵器	暗褐色シルト	9世紀後半	SP59	土師器	灰褐色シルト	中世
SP05				SP60	土師器、土師質土器	灰褐色シルト	中世
SP06				SP61	土師器小皿・杯、須恵器、土師質土器	灰褐色シルト	14世紀
SP07				SP62	土師器	灰褐色シルト	中世
SP08	土師器、土師質土器	暗褐色シルト	中世	SP63	土師器、土師質土器	灰褐色シルト	中世
SP09	土師器杯	暗褐色シルト	中世	SP64	須恵器、土師質土器	灰褐色シルト	古代
SP10	土師器	暗褐色シルト	古代	SP65	土師器小皿	灰褐色シルト	中世
SP11	土の器	暗褐色シルト	中世	SP66		灰褐色シルト	
SP12	須恵器	暗褐色シルト	古代	SP67	土師器	灰褐色シルト	中世
SP13				SP68		灰褐色シルト	
SP14				SP69		灰褐色シルト	
SP15				SP70	土師質土器	灰褐色シルト	古代
SP16				SP71	土師器	灰褐色シルト	中世
SP17	須恵器	灰黄色シルト	古代	SP72		灰褐色シルト	
SP18	須恵器	灰黄色シルト	古代	SP73		灰褐色シルト	
SP19	サヌカイト	灰黄色シルト		SP74		灰褐色シルト	
SP20		灰黄色シルト		SP75	土師器小皿・杯、土師質土器、石燈	灰褐色シルト	14世紀
SP21		灰黄色シルト		SP76		灰褐色シルト	
SP22		灰黄色シルト		SP77	土師器小皿	灰褐色シルト	中世
SP23		灰黄色シルト		SP78	土師器杯	灰褐色シルト	中世
SP24	土師質土器		古代?	SP79	土師器小皿・杯、須恵器杯	灰褐色シルト	中世
SP25	土師器、龟山罐	灰褐色シルト	中世	SP80	土師器小皿・杯、須恵器	灰褐色シルト	14世紀
SP26	須恵器	灰褐色砂質	中世	SP81	土師器小皿・杯、須恵器杯	灰褐色シルト	14世紀
SP27		灰褐色砂質		SP82	土師器、土師質土器	灰褐色シルト	中世
SP28	土師器、土師質土器	灰褐色シルト	古代	SP83	土師器、土師質土器	灰褐色シルト	中世
SP29	須恵器	暗褐色シルト	古代	SP84	土師器・皿・盆、土師質土器、陶瓦、鐵鋸齒、鐵石	灰褐色シルト	14世紀
SP30		灰褐色砂質		SP85	土師器小皿・杯、土師質土器、須恵器	灰褐色シルト	14世紀
SP31		灰褐色砂質		SP86	土師器小皿・杯、土瓦、石燈、サヌカイト	灰褐色シルト	14世紀
SP32	土の器	暗褐色シルト	中世	SP87		灰褐色シルト	
SP33		暗褐色シルト		SP88	土師器杯、土盆	灰褐色シルト	中世
SP34	土師器	暗褐色シルト	中世	SP89	土師器杯、土師質土器	灰褐色シルト	中世
SP35	土師器	灰褐色砂質	中世	SP90	土師器小皿・杯、須恵器	灰褐色シルト	14世紀
SP36	土師器杯	灰褐色砂質	中世	SP91	土師器小皿・杯、青磁器・土器、匂の拂匙五	灰褐色シルト	14世紀
SP37		灰褐色シルト		SP92		灰褐色シルト	
SP38	土師器	灰褐色シルト	中世	SP93	土師器	灰褐色シルト	中世
SP39		灰褐色シルト		SP94	土師器杯、土鍋、須恵器	灰褐色シルト	中世
SP40		灰褐色シルト		SP95		灰褐色シルト	
SP41	土師器	暗褐色シルト	中世	SP96		灰褐色シルト	
SP42	土師器小皿	暗褐色シルト	中世	SP97	土師器	灰褐色シルト	中世
SP43	土師器杯、須恵器	灰褐色シルト	古代	SP98	土師器杯、土師質土器	灰褐色シルト	中世
SP44	土師器小皿・杯	灰褐色シルト	中世	SP99	土師器小皿・杯、碗、土師質土器	灰褐色シルト	13世紀後半
SP45	土師器小皿・杯、土壺	灰褐色シルト	14世紀	SP100		灰褐色シルト	
SP46	土の器杯、須恵器杯	灰褐色シルト	古代	SP101	須恵器杯身	灰褐色シルト	6世紀末
SP47	土師器小皿・杯、土壺、須恵器杯	暗褐色シルト	14世紀	SP102	須恵器杯	灰褐色シルト	9世紀後半
SP48	土師器	灰褐色シルト	中世	SP103	土師器小皿、須恵器、土師質土器	灰褐色シルト	中世
SP49	土師器	灰褐色シルト	中世	SP104	土師器杯	灰褐色シルト	中世
SP50	土師器小皿・杯	灰褐色シルト	中世	SP105		灰褐色シルト	
SP51		灰褐色シルト		SP106	土師器	灰褐色シルト	中世
SP52		灰褐色シルト		SP107	土師器	灰褐色シルト	中世
SP53		灰褐色シルト		SP108	土師器小皿、土壺	灰褐色シルト	中世
SP54		灰褐色シルト		SP109		灰褐色シルト	
SP55		灰褐色シルト		SP110		灰褐色シルト	

8. 包含層出土遺物

包含層からは弥生時代、古代、中世の遺物が出土している（第36図）。

137～141は弥生時代の土器で、壺・高坏が出土している。時期は後期前葉頃と思われる。142～153は古代の須恵器である。時期は8世紀頃の遺物もあるが、そのほとんどは9世紀後半頃のものである。154～164は中世の土器である。時期は13世紀前半から14世紀のものである。



第36図 包含層出土遺物実測図

第4節 まとめ

百相坂遺跡で検出した遺構は弥生時代・古代・中世のもので、部分的にかなり希薄な部分があった。おそらく中央部の微高地部分が削平を受けて、東部の緩傾斜面に遺構が残っていたものと思われる。また、西部は旧香東川の氾濫により、地形的及び土層的に改変を受けており、居住域としては適しておらず、そのために生産域としての水田跡が検出できたものと考える。

弥生時代の遺構は調査区東端部において南西から北東方向に延びる溝状遺構のみで、その他には検出していない。

時期は弥生時代後期頃で実測可能な遺物は出土していない。しかし、溝状遺構上部に堆積した包含層から弥生時代後期前葉頃の遺物が出土していることから、この溝状遺構 S D02も後期前葉頃と考える。

古代の遺構は掘立柱建物1棟と柱穴である。主軸がほぼ南北方向で、雨落ち溝を伴うものである。

時期は9世紀後半から10世紀前半頃と考える。

中世ではかなり遺構が増え、掘立柱建物・柵列・土坑・不明遺構（集石遺構）・柱穴などを検出している。調査区中央部では、かなり削平を受けており遺構は希薄であった。東部緩傾斜面で検出した遺構は、総柱の掘立柱建物・柱穴・不明遺構特に集石遺構を中心としている。この集石遺構は塚の痕跡の可能性を考えられ、集落域と墓域の関係を考えるのに有効な資料となるものである。

時期は13世紀から14世紀にかけてのもので、特に14世紀の遺構が多いことがわかる。

このように当遺跡周辺では弥生時代から中世にかけて連綿と生活が営まれていたことが推測できるが、南部に位置する船岡山古墳との関係や遺構の増える中世までの集落の全容を把握するまでには至っていない。当遺跡の調査成果が、今後周辺での発掘調査の一資料になれば幸いである。

第3表 出土遺物観察表

5801

出物	博局	器種	口径 高さ (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	焼 成	色 調	胎 土	遺存度	備 考
1	6-20	須彌壇 壙	—	11.2	—	模様で 横なび	模様で 横なび	普通	灰5Y6/1	0.1~2mmの砂粒を含む 0.1~1mmの砂粒を含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む	破片	
2	6-20	須彌壇 壙	—	—	—	模様で 横なび	模様で 横なび	普通	灰6/1	0.1~2mmの砂粒を含む 0.1~1mmの砂粒を含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む	破片	
3	6-20	須彌壇 壙	—	—	—	模様で 横なび	模様で 横なび	良好	灰N5/1	0.1~1mmの砂粒を含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む	破片	表面 剥落
S X 0 2	博局	器種	口径 高さ (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	焼 成	色 調	胎 土	遺存度	備 考
4	7	土師器 壙	5.2	0.9	4.7	模様で 横なび	模様で 横なび	普通	灰7.5YR6/6	0.2~1mmの砂粒を含む 0.1~1mmの砂粒を含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む	破片	
5	7	土師器 壙	5.9	0.9	5.0	模様で 横なび	模様で 横なび	普通	灰7.5YR7/6	0.1~1mmの砂粒を含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む	破片	
6	7	土師器 壙	10.2	—	—	模様で 横なび	模様で 横なび	普通	灰褐色10YR8/4	0.2~1mmの砂粒を含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む	破片	
S A 0 1	博局	器種	口径 高さ (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	焼 成	色 調	胎 土	遺存度	備 考
7	10	土師器 壙	6.0	0.9	4.7	模様で 横なび	模様で 横なび	普通	灰褐色10YR8/4	0.1~1mmの砂粒を含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む	破片	
8	10	土師器 壙	6.2	1.1	4.8	模様で 横なび	模様で 横なび	普通	灰褐色7.5YR7/6	0.2~1mmの砂粒を含む 0.1~1mmの砂粒を含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む	破片	
9	10	土師器 壙	6.7	0.95	5.0	模様で 横なび	模様で 横なび	普通	灰褐色10YR8/4	0.1~1mmの砂粒を含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む	破片	
10	10	土師器 壙	6.8	—	—	模様で 横なび	模様で 横なび	やや不良	灰褐4.5YR8/3	0.2~1mmの砂粒を含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む	破片	
11	10	土師器 壙	12.5	—	—	模様で 横なび	模様で 横なび	不良	灰白5Y7/1	0.2~1mmの砂粒を含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む	破片	
S K 0 2	博局	器種	口径 高さ (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	焼 成	色 調	胎 土	遺存度	備 考
12	13	土師器 壙	5.0	0.7	4.4	模様で 横なび	模様で 横なび	普通	灰褐色10YR8/3	0.2~1mmの砂粒を含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む	破片	
13	13	土師器 壙	5.2	0.9	4.7	模様で 横なび	模様で 横なび	普通	灰褐色7.5YR7/6	0.2~1mmの砂粒を含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む	破片	
14	13	土師器 壙	5.4	0.8	4.6	模様で 横なび	模様で 横なび	普通	灰褐色5Y7/6	0.2~1mmの砂粒を含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む	破片	
15	13	土師器 壙	5.2	0.9	4.3	模様で 横なび	模様で 横なび	やや良	灰褐色5Y7/6	0.2~1mmの砂粒を含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む	破片	
16	13	土師器 壙	5.2	0.9	4.7	模様で 横なび	模様で 横なび	普通	灰褐色10YR8/4	0.2~1mmの砂粒を含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む	破片	
17	13	土師器 壙	5.5	0.9	4.6	模様で 横なび	模様で 横なび	普通	灰褐色7.5YR7/6	0.2~1mmの砂粒を含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む	破片	
18	13	土師器 壙	11.6	3.0	6.8	模様で 横なび	模様で 横なび	普通	灰褐色5Y7/6	0.2~1mmの砂粒を含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む	破片	
S X 0 1	博局	器種	口径 高さ (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	焼 成	色 調	胎 土	遺存度	備 考
21	15	須彌壇 壙	14.6	—	—	模様で 横なび	模様で 横なび	良好	灰N5/1	0.3~1mmの砂粒を含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む	破片	
S X 0 3	博局	器種	口径 高さ (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	焼 成	色 調	胎 土	遺存度	備 考
22	18	土師器 壙	6.2	1.1	5.8	模様で 横なび	模様で 横なび	普通	灰褐色7.5YR7/6	0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む	破片	
23	18	土師器 壙	13.0	—	—	模様で 横なび	模様で 横なび	普通	灰褐色10YR7/4	0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む 0.1~0.5mmの砂粒を多量に含む	破片	

S X 6

番号	機器名	器 横	口径 (cm)	留高 (cm)	外 面	内 面	焼 成	色 調	地 土	道 度	備 考
24	18	一輪鋸 小皿	5.5	0.7	5.0 働なで~へラ切り	焼なで	普通	槍 5 YR 7/6	0.3~1 mmの砂粒を含む石英含む	2/8	
25	18	一輪鋸 小皿	5.8	0.7	5.1 働なで~へラ切り	焼なで	普通	槍 5 YR 7/6	0.2~1 mmの砂粒を含む石英含む	2/8	
26	18	一輪鋸 打	10.0	—	—	焼なで	普通	槍 5 YR 7/6	0.2~1 mmの砂粒を含む石英含む	2/8	
27	18	一輪鋸 打	—	—	7.5 働なで~へラ切り	焼なで	普通	槍 10 YR 8/3	0.2~1 mmの砂粒を含む石英含む	2/8	
28	18	一輪鋸 土鑿	—	—	—	7.5 働なで~へラ切り	普通	槍 10 YR 8/3	0.5~1 mmの砂粒を多量に含む石英含む	2/8	
29	18	一輪鋸 打	10.8	2.2	6.9 働なで~へラ切り	焼なで	普通	槍 7.5 YR 8/8	0.3~1 mmの砂粒を少量含む石英含む	3/8	
30	18	一輪鋸 打	9.9	2.2	6.0 働なで~へラ切り	焼なで	普通	槍 7.5 YR 8/8	0.2~1 mmの砂粒を少量含む石英含む	3/8	
31	18	一輪鋸 打	—	—	6.6 働なで~へラ切り	焼なで	普通	槍 7.5 YR 6/6	0.1~1 mmの砂粒を含む石英含む	3/8	

S X 7

番号	機器名	器 横	口径 (cm)	留高 (cm)	外 面	内 面	焼 成	色 調	地 土	道 度	備 考
32	20	一輪鋸 小皿	5.5	0.6	5.0 働なで~へラ切り	焼なで	普通	槍 5 YR 7/6	0.1~1 mmの砂粒を少量含む石英含む	2/8	
33	20	一輪鋸 小皿	6.6	1.0	4.8 働なで~へラ切り	焼なで	普通	槍 5 YR 7/6	0.1~1 mmの砂粒を少量含む石英含む	3/8	
34	20	一輪鋸 小皿	6.0	0.9	4.6 働なで~へラ切り	焼なで	普通	槍 5 YR 8/4	0.1~1 mmの砂粒を少量含む石英含む	1/8	
35	20	一輪鋸 小皿	6.4	1.1	4.5 働なで~へラ切り	焼なで~指なで	普通	槍 7.5 YR 7/6	0.1~1 mmの砂粒を少量含む石英含む	3/8	
36	20	一輪鋸 小皿	5.6	0.7	4.8 働なで~へラ切り	焼なで~指なで	普通	槍 7.5 YR 8/4	0.1~1 mmの砂粒を少量含む石英含む	2/8	
37	20	一輪鋸 小皿	6.2	1.1	4.4 働なで~へラ切り	焼なで~指なで	普通	槍 7.5 YR 7/4	0.1~1 mmの砂粒を少量含む石英含む	2/8	
38	20	一輪鋸 小皿	10.1	—	6.0 働なで~へラ切り	焼なで	普通	槍 7.5 YR 7/4	0.1~1 mmの砂粒を少量含む石英含む	3/8	
39	20	一輪鋸 打	10.1	2.7	6.0 働なで~へラ切り	焼なで	普通	槍 7.5 YR 7/4	0.1~1 mmの砂粒を少量含む石英含む	3/8	
40	20	一輪鋸 打	10.4	2.6	7.1 働なで~へラ切り	焼なで	良好	枪: 区白 2.5 YR 7/4 土: 区白 2.5 YR 7/4	0.1~1 mmの砂粒を少量含む石英含む	2/8	□先X 1 級
41	20	臼 鋼	10.0	—	—	—	抛光	枪: 区白 2.5 YR 7/4 土: 区白 2.5 YR 7/4	0.1~1 mmの砂粒を少量含む石英含む	2/8	□先X 1 級
42	20	臼 鋼 鋼	—	—	5.8 斧頭削り出し	馬歛	良好	馬: オリーブ 10 YR 7/2 土: オリーブ 10 YR 7/2	0.3~2 mmの砂粒を多量に含む石英含む	2/8	
43	20	21.5 背負 こひ鉢	—	—	—	馬歛なで~指面削り出しなで	普通	槍 7.5 YR 7/4	0.1~1 mmの砂粒を少量含む石英含む	2/8	
44	20	21.5 背負 こひ鉢	23.0	—	—	馬歛なで~指面削り出しなで	普通	槍 7.5 YR 7/4	0.2~1 mmの砂粒を多量に含む石英含む	2/8	
45	20	21.5 背負 こひ鉢	27.8	—	—	馬歛なで~指面削り出しなで	普通	槍 7.5 YR 7/4	0.2~1 mmの砂粒を多量に含む石英含む	2/8	
46	20	21.5 背負 こひ鉢	—	—	13.6 働なで	馬歛なで~指なで	普通	槍 7.5 YR 7/4	0.2~1 mmの砂粒を多量に含む石英含む	2/8	
47	20	21.5 背負 こひ鉢	—	—	18.6	馬歛なで~指なで	普通	槍 7.5 YR 7/4	0.3~1 mmの砂粒を多量に含む石英含む	2/8	
48	20	21.5 背負 こひ鉢	—	—	19.5	馬歛なで~指なで	普通	槍 7.5 YR 7/4	0.3~1 mmの砂粒を多量に含む石英含む	2/8	
49	20	21.5 背負 こひ鉢	—	—	26.8	馬歛なで~指なで	普通	槍 7.5 YR 6/4	0.5~1 mmの砂粒を多量に含む石英含む	2/8	
50	20	21.5 背負 こひ鉢	—	—	—	馬歛なで~指なで	普通	槍 7.5 YR 6/6	0.2~1 mmの砂粒を多量に含む石英含む	2/8	
51	20	21.5 背負 こひ鉢	—	—	—	馬歛なで~指なで	普通	槍 7.5 YR 6/6	0.2~1 mmの砂粒を多量に含む石英含む	2/8	
52	20	21.5 背負 こひ鉢	16.2	—	—	馬歛なで~指なで	普通	槍 7.5 YR 5/4	0.3~3 mmの砂粒を多量に含む石英含む	2/8	
53	20	21.5 背負 こひ鉢	46.2	—	—	馬歛なで~指なで	普通	槍 7.5 YR 5/4	0.3~3 mmの砂粒を多量に含む石英含む	2/8	

S X 8

番号	機器名	器 横	口径 (cm)	留高 (cm)	外 面	内 面	焼 成	色 調	地 土	道 度	備 考
54	22	箱型鋸 打	—	—	—	馬歛なで	良好	EN 6/	細良	2/8	

S X 9

番号	機器名	器 横	口径 (cm)	留高 (cm)	外 面	内 面	焼 成	色 調	地 土	道 度	備 考
—	—	—	—	—	馬歛なで	—	普通	—	—	—	

回数		回数		外 面	内 面	発 成	色	調 色	胎 土	選 度	備 考
回数	回数	回数	回数	cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm	
25	25	土筋小皿	土筋小皿	6.2	0.8	5.2	楕円な形で、ヘラ切り	楕円な形を含む白灰合	白灰合	2.8	
25	25	土筋小皿	土筋小皿	6.2	0.9	5.2	楕円な形で、ヘラ切り	楕円な形を含む白灰合	白灰合	8/5	
25	25	土筋小皿	土筋小皿	5.9	0.8	4.9	楕円な形で、ヘラ切り	楕円な形を含む白灰合	白灰合	5/8	
25	25	土筋小皿	土筋小皿	5.9	0.9	4.9	楕円な形で、ヘラ切り	楕円な形を含む白灰合	白灰合	5/8	
25	25	土筋小皿	土筋小皿	6.2	1.1	4.9	楕円な形で、ヘラ切り	楕円な形を含む白灰合	白灰合	7.8	
25	25	土筋小皿	土筋小皿	6.5	1.0	5.2	楕円な形で、ヘラ切り	楕円な形を含む白灰合	白灰合	2.8	
25	25	土筋小皿	土筋小皿	6.3	1.0	4.7	楕円な形で、ヘラ切り	楕円な形を含む白灰合	白灰合	8/5	
25	25	土筋小皿	土筋小皿	6.0	1.1	4.9	楕円な形で、ヘラ切り	楕円な形を含む白灰合	白灰合	2.8	
25	25	土筋小皿	土筋小皿	6.5	1.1	5.2	楕円な形で、ヘラ切り	楕円な形を含む白灰合	白灰合	8/5	
25	25	土筋小皿	土筋小皿	6.1	1.1	5.2	楕円な形で、ヘラ切り	楕円な形を含む白灰合	白灰合	2.8	
25	25	土筋小皿	土筋小皿	6.5	1.0	5.2	楕円な形で、ヘラ切り	楕円な形を含む白灰合	白灰合	4/8	
25	25	土筋小皿	土筋小皿	6.6	1.3	5.4	楕円な形で、ヘラ切り	楕円な形を含む白灰合	白灰合	2.8	
25	25	土筋小皿	土筋小皿	6.6	1.1	5.2	楕円な形で、ヘラ切り	楕円な形を含む白灰合	白灰合	2.8	
25	25	土筋小皿	土筋小皿	6.5	1.1	5.2	楕円な形で、ヘラ切り	楕円な形を含む白灰合	白灰合	3/8	
25	25	土筋小皿	土筋小皿	10.8	—	6.4	楕円な形で、ヘラ切り	やや不規	白灰合	8/3	
25	25	土筋小皿	土筋小皿	—	—	—	楕円な形で、ヘラ切り	やや不規	白灰合	2.8	
25	25	土筋小皿	土筋小皿	—	—	—	楕円な形で、ヘラ切り	やや不規	白灰合	6.8	
25	25	土筋小皿	土筋小皿	—	—	—	楕円な形で、ヘラ切り	やや不規	白灰合	4/8	
25	25	土筋小皿	土筋小皿	—	—	—	楕円な形で、ヘラ切り	やや不規	白灰合	1/8	
25	25	土筋小皿	土筋小皿	12.4	1.8	9.3	楕円な形で、ヘラ切り	楕円な形を含む白灰合	白灰合	1/8	
25	25	土筋小皿(火入)	土筋小皿(火入)	13.2	—	—	楕円な形で、ヘラ切り	楕円な形を含む白灰合	白灰合	1/8	
25	25	土筋小皿(火入)	土筋小皿(火入)	24.5	—	—	楕円な形で、刷毛目	楕円な形を含む白灰合	白灰合	1/8	

0

5

植物	種名	園地番号	樹種	口徑(高さ)(cm)	外 面	内 面	燒 成	色 調	物 質	造形度	備考
落葉樹	落葉樹	89	一輪器 环	—	—	2.7 様なでへラ切り	楕なで・楕なで	不規	灰質 2.5 Y 7/2.	0.1~1 mmの砂を含む石英・長石含む	底深 2.8
		90	一輪器 环	—	—	4.6 様なでへラ切り	楕なで	普通	5.5 YR 6/6	0.3~1 mmの砂を少量含む石英・長石含む	底片
		91	一輪器 小皿	5.8	0.9	4.6 様なでへラ切り	楕なで	普通	7.5 YR 7/6	0.2~1 mmの砂を多量に含む石英・長石含む	口径 1.8
		92	一輪器 环	10.1	—	—	楕なで	普通	7.5 YR 7/6	0.2~1 mmの砂を少量含む石英・長石含む	口径 1.8
常綠樹	常綠樹	93	一輪器 小皿	6.3	1.0	5.0 様なでへラ切り	楕なで	普通	7.5 YR 6/6	0.2~1 mmの砂を多量に含む石英・長石含む	底片
		94	一輪器 小皿	6.4	1.1	4.8 様なでへラ切り	楕なで	普通	7.5 YR 6/6	0.2~1 mmの砂を少量含む石英・長石含む	底片
		95	一輪器 小皿	7.4	1.0	6.2 様なでへラ切り	楕なで	普通	7.5 YR 6/6	0.2~1 mmの砂を多量に含む石英・長石含む	底片
		96	一輪器 小皿	9.4	2.3	7.0 様なでへラ切り	楕なで	普通	7.5 YR 7/6	0.2~1 mmの砂を少量含む石英・長石含む	口径 1.8
		97	一輪器 环	—	—	—	楕なで	普通	7.5 YR 7/6	0.2~1 mmの砂を多量に含む石英・長石含む	底片
		98	一輪器 土台物	4.9	0.7	4.1 様なでへラ切り	楕なで	普通	7.5 YR 7/6	0.2~1 mmの砂を少量含む石英・長石含む	底片
99	一輪器 小皿	5.2	0.95	4.8 様なでへラ切り	楕なで	普通	7.5 YR 6/6	0.1~1 mmの砂を含む石英・長石含む	口径 6.8		
100	一輪器 小皿	5.8	0.8	4.8 様なでへラ切り	楕なで	普通	7.5 YR 10 YR 7/4	0.2~1 mmの砂を少量含む石英・長石含む	口径 2.8		
101	一輪器 小皿	5.4	0.9	5.1 様なでへラ切り	楕なで	普通	7.5 YR 6/6	0.2~1 mmの砂を少量含む石英・長石含む	口径 3.8		
102	一輪器 小皿	9.8	2.1	6.1 様なで	楕なで	普通	7.5 YR 6/6	0.1~1 mmの砂を含む石英・長石含む	底片		
103	一輪器 环	—	—	—	—	普通	7.5 YR 6/6	0.1~1 mmの砂を含む石英・長石含む	底片		
104	一輪器 环	—	—	—	—	普通	7.5 YR 8/8	楕	底片		
105	一輪器 环	—	—	—	—	普通	7.5 YR 7/2	0.2~1 mmの砂を含む石英・長石含む	底片		
106	一輪器 环	—	—	—	—	普通	7.5 YR 7/2	0.2~1 mmの砂を含む石英・長石含む	底片		
107	一輪器 环	—	—	—	—	普通	7.5 YR 7/2	0.2~1 mmの砂を含む石英・長石含む	底片		
108	一輪器 小皿	—	—	—	—	普通	7.5 YR 7/2	0.2~1 mmの砂を含む石英・長石含む	底片		
109	一輪器 小皿	—	—	—	—	普通	7.5 YR 7/2	0.2~1 mmの砂を含む石英・長石含む	底片		
		110	23 七重	2.3	1.7	5.0	0.3	1.08	4.5 カット	風化・先端部欠損	

形形・調節の特徴

植物	種名	園地番号	樹種	口徑(高さ)(cm)	現存長(cm)	最大幅(cm)	厚大厚(cm)	重(agram)	材質	質	造形度	備考
落葉樹	落葉樹	110	23 七重	—	—	—	—	—	普通	風化	底片	
常綠樹	常綠樹	111	一輪器 小皿	5.3	0.7	4.9 様なでへラ切り	楕なで	普通	浅黄褐色 10 YR 8/4	0.2~1 mmの砂を少量含む石英・長石含む	底片	2.8
		112	一輪器 小皿	5.6	1.0	4.9 様なでへラ切り	楕なで	普通	7.5 YR 7/6	0.1~1 mmの砂を少量含む石英・長石含む	底片	1.8
		113	一輪器 小皿	6.0	0.7	5.6 様なでへラ切り	楕なで	普通	7.5 YR 7/6	0.1~1 mmの砂を少量含む石英・長石含む	底片	2.8
		114	一輪器 小皿	9.8	3.0	5.8 様なでへラ切り	楕なで	普通	7.5 YR 7/6	0.1~1 mmの砂を少量含む石英・長石含む	底片	3.8
		115	一輪器 小皿	5.9	0.9	5.4 様なでへラ切り	楕なで	普通	7.5 YR 7/6	0.1~0.5 mmの砂を多量に含む石英・長石含む	底片	1.8
		116	一輪器 环	10.2	—	—	楕なで	普通	浅黄褐色 10 YR 8/4	0.2~1 mmの砂を多量に含む石英・長石含む	底片	1.8

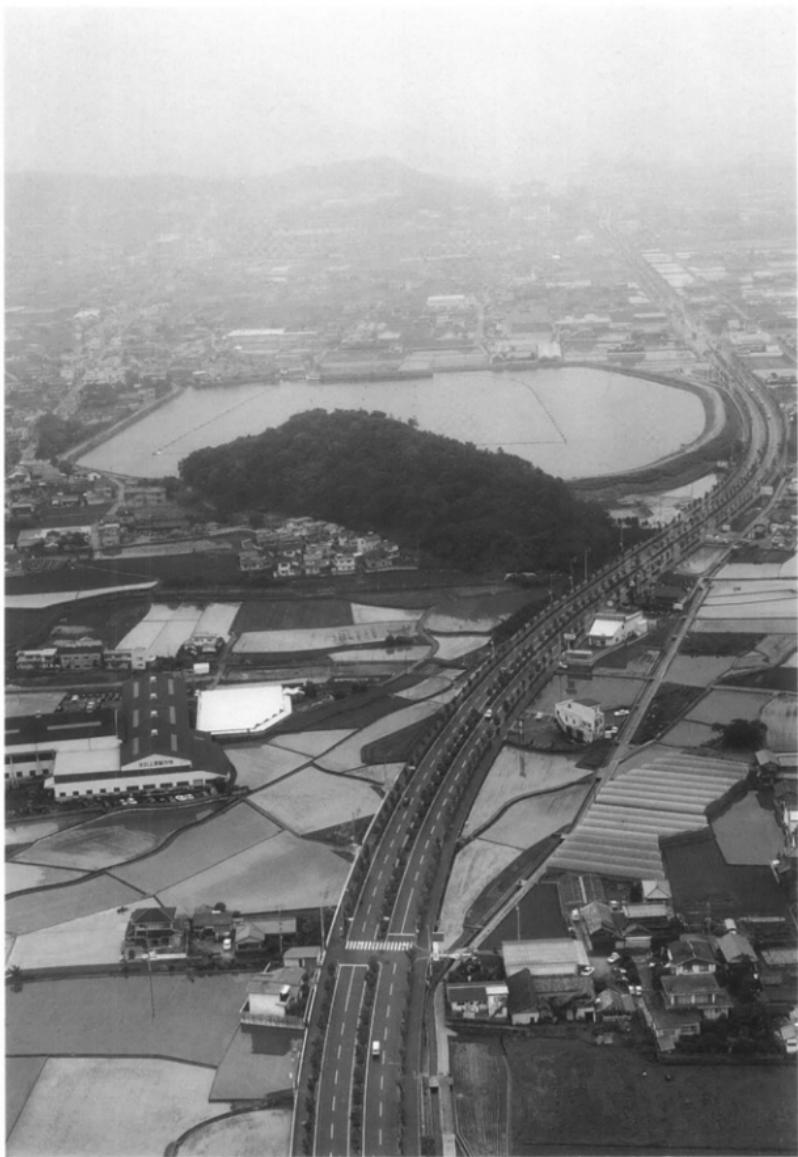
形形・調節の特徴

植物	種名	園地番号	樹種	口徑(高さ)(cm)	外 面	内 面	燒 成	色 調	物 質	造形度	備考
落葉樹	落葉樹	117	23 岩石	7.7	5.0	5.2	271.21	赤鉄岩	風化	底片	
常綠樹	常綠樹	118	一輪器 环	5.5	0.7	4.8 様なでへラ切り	楕なで	普通	7.5 YR 7/6	0.3~1 mmの砂を含む石英・長石含む	口径 6.8
		119	23 七重	6.6	0.9	5.1 様なでへラ切り	楕なで	普通	7.5 YR 7/6	0.2~1 mmの砂を少量含む石英・長石含む	口径 1.8
		120	一輪器 环	8.8	—	—	普通	7.5 YR 7/6	0.3~1 mmの砂を少量含む石英・長石含む	底片	2.8
		121	一輪器 环	10.4	—	—	普通	7.5 YR 7/6	0.3~1 mmの砂を少量含む石英・長石含む	底片	1.8
		122	一輪器 环	—	—	—	普通	7.5 YR 7/6	0.3~1 mmの砂を少量含む石英・長石含む	底片	1.8
		123	一輪器 小皿	5.1	0.8	5.2 様なでへラ切り	楕なで	普通	7.5 YR 6/6	0.3~1 mmの砂を少量含む石英・長石含む	口径 1.8
		124	一輪器 环	10.7	—	—	普通	7.5 YR 7/6	0.2~1 mmの砂を少量含む石英・長石含む	底片	1.8
		125	一輪器 环	—	—	—	普通	7.5 YR 7/6	0.1~1 mmの砂を多量に含む石英・長石含む	底片	1.8

形形・調節の特徴

植物種名	園芸品目	器種番号	器種番号	外 面	内 面	成 分	色 調	土 質	生育度	備考	
										選育度	
植物種名	園芸品目	器種番号	器種番号	(口徑 cm)	(高さ cm)						
126 35 土壌器 破壊		137 36 生育器 破壊		9.4	6.8 様など	普通	暗赤	0.1~1-mmの砂粒を少含む 石英含む	選育		
127 35 土壌器 小皿		138 36 生育器 破壊		6.9	1.0 5.2 様などで 楕などで・へたり	普通	暗赤	0.1~1-mmの砂粒を少含む 石英含む	選育	1/8	
128 35 土壌器 小皿		139 36 生育器 破壊		—	楕などで・凹凸感	普通	暗赤	0.1~1-mmの砂粒を少含む 石英含む	選育		
129 35 集塵機 罫		140 36 生育器 破壊		—	楕などで・日焼地	普通	暗赤	0.1~1-mmの砂粒を少含む 石英含む	選育		
130 35 集塵器 片持		141 36 生育器 破壊		12.3	— 一様など・自然地	普通	暗赤	0.1~1-mmの砂粒を多量に含む 石英含む	選育	1/8	
131 35 集塵器 破		142 36 生育器 破壊		10.8	— 一様など	良好	灰白	0.1~1-mmの砂粒を含む 石英含む	選育		
132 35 集塵器 破		143 36 生育器 小皿		12.6	— 一様など	良好	灰白	0.1~1-mmの砂粒を含む 石英含む	選育		
133 35 土壌器 小皿		144 36 生育器 小皿		5.5	0.9 4.8 様などで 楕などで・へたり	普通	暗赤	0.1~1-mmの砂粒を含む 石英含む	選育	3/8	
134 35 土壌器 小皿		145 36 生育器 小皿		5.8	0.8 4.5 様などで・へたり	普通	暗赤	0.1~1-mmの砂粒を少含む 石英含む	選育	5/8	
135 36 土壌器 小皿		146 36 生育器 小皿		11.4	2.8 7.4 様などで・へたり	普通	暗赤	0.1~1-mmの砂粒を少含む 石英含む	選育	1/8	
136 35 土壌器 小皿		147 36 生育器 小皿		5.6	0.75 4.4 様などで・へたり	普通	暗赤	0.3~1-mmの砂粒を含む 石英含む	選育	2/8	
包育器											
植物種名	園芸品目	器種番号	器種番号	(口徑 cm)	(高さ cm)						
148 36 生育器 破壊		149 36 生育器 破壊		—	1.6 様など	ヘラ削り	やや良	明赤褐色 7.5 YR 5/6	0.1~1-mmの砂粒を含む 石英含む	選育	
150 36 生育器 破壊		151 36 生育器 破壊		—	4.2 様などで・楕など	楕などで	良好	明赤褐色 10 YR 6/4	0.2~2-mmの砂粒を多量に含む 石英含む	選育	
152 36 生育器 破壊		153 36 生育器 破壊		—	12.2 様などで・楕など	楕などで	良好	明赤褐色 7.5 YR 6/4	0.1~1-mmの砂粒を多量に含む 石英含む	選育	2/8
153 36 生育器 破壊		154 36 生育器 小皿		13.6	3.6 8.4 様などで 楕などで・へたり	楕などで	良好	明赤褐色 10 YR 6/4	0.1~1-mmの砂粒を多量に含む 石英含む	選育	1/8
154 36 生育器 小皿		155 36 生育器 小皿		11.5	3.0 7.2 様などで・へたり	楕などで	良好	明赤褐色 10 YR 6/4	0.1~1-mmの砂粒を多量に含む 石英含む	選育	4/8
155 36 生育器 小皿		156 36 生育器 小皿		11.8	3.7 7.4 様などで 楕などで・へたり	楕などで	良好	明赤褐色 10 YR 6/4	0.1~1-mmの砂粒を多量に含む 石英含む	選育	2/8
156 36 生育器 小皿		157 36 生育器 小皿		—	8.8 様などで・へたり	楕などで	良好	明赤褐色 10 YR 6/4	0.1~1-mmの砂粒を多量に含む 石英含む	選育	1/8
157 36 生育器 小皿		158 36 土色土器 破		12.8	2.0 9.0 様などで・へたり	楕などで	良好	明赤褐色 10 YR 6/4	0.1~1-mmの砂粒を少含む 石英含む	選育	2/8
158 36 土色土器 破		159 36 土色土器 破		12.6	1.7 9.3 様などで・へたり	楕などで	良好	明赤褐色 7.5 YR 7/2	0.1~1-mmの砂粒を少含む 石英含む	選育	4/8
159 36 土色土器 破		160 36 土色土器 破		—	10.9 様などで・へたり	楕などで	良好	明赤褐色 7.5 YR 6/1	0.1~1-mmの砂粒を少含む 石英含む	選育	2/8
160 36 土色土器 破		161 36 土色土器 破		—	—	ヘラ削り	良好	明赤褐色 7.5 YR 7/2	0.1~1-mmの砂粒を少含む 石英含む	選育	3/8
161 36 土色土器 破		162 36 土色土器 破		—	—	楕などで	良好	明赤褐色 10 YR 6/4	0.1~1-mmの砂粒を少含む 石英含む	選育	2/8
162 36 土色土器 破		163 36 土色土器 破		—	—	楕などで・凹凸感	良好	明赤褐色 2.5 YR 7/3	0.3~3-mmの砂粒を含む 石英含む	選育	2/8
163 36 土色土器 破		164 36 土色土器 破		—	—	手触・凹凸感	手触	明赤褐色 7.5 YR 7/1	0.3~3-mmの砂粒を含む 石英含む	選育	1/8
164 36 土色土器 破		165 36 土色土器 破		—	—	指觸・凹凸感	指觸	明赤褐色 10 YR 6/4	0.2~2-mmの砂粒を含む 石英含む	選育	1/8
165 36 土色土器 破		166 36 土色土器 破		—	—	手触・凹凸感	手触	明赤褐色 10 YR 6/4	0.2~2-mmの砂粒を含む 石英含む	選育	1/8
166 36 土色土器 破		167 36 土色土器 破		—	—	指觸・凹凸感	指觸	明赤褐色 10 YR 7/3	0.2~2-mmの砂粒を含む 石英含む	選育	1/8

図 版

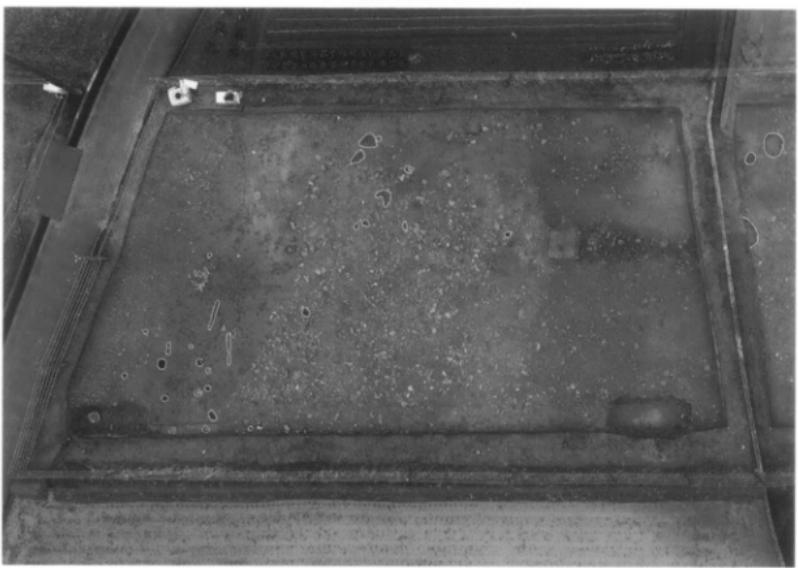


調査区遠景（北空中より）

図版 2



(1) B - 2 区遺構検出状況（真上より）



(2) C - 2 区遺構検出状況（真上より）



(1)D - 2 + E - 2 区遺構検出状況（真上より）



(2)E - 2 区遺構検出状況（真上より）

图版 4



(1) C - 2 区南壁土層断面（北より）



(2) A - 2 区土層断面（南より）



(1) B-2 区遺構検出状況（南西より）



(2) C-2 区遺構検出状況（東より）

図版 6



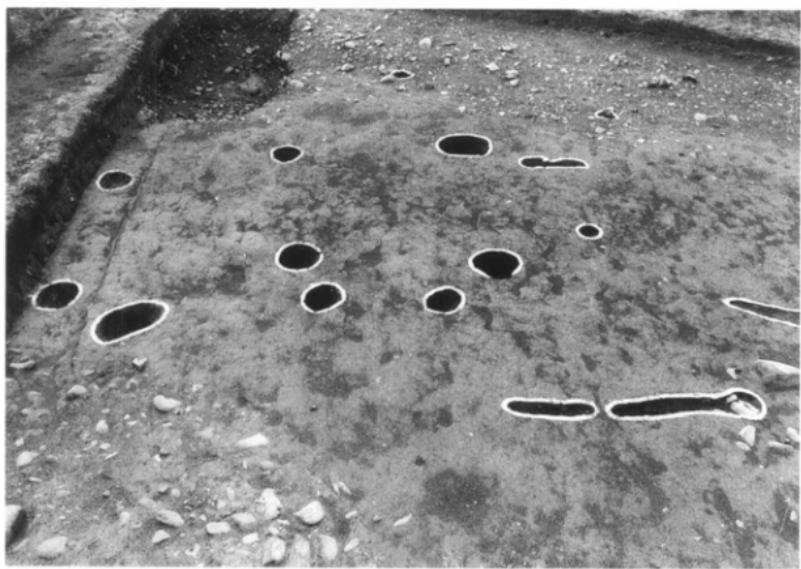
(1) D - 2 区遺構検出状況（西より）



(2) D - 2 + E - 2 区遺構検出状況（東より）



(1)調査区遺構検出状況（西より）



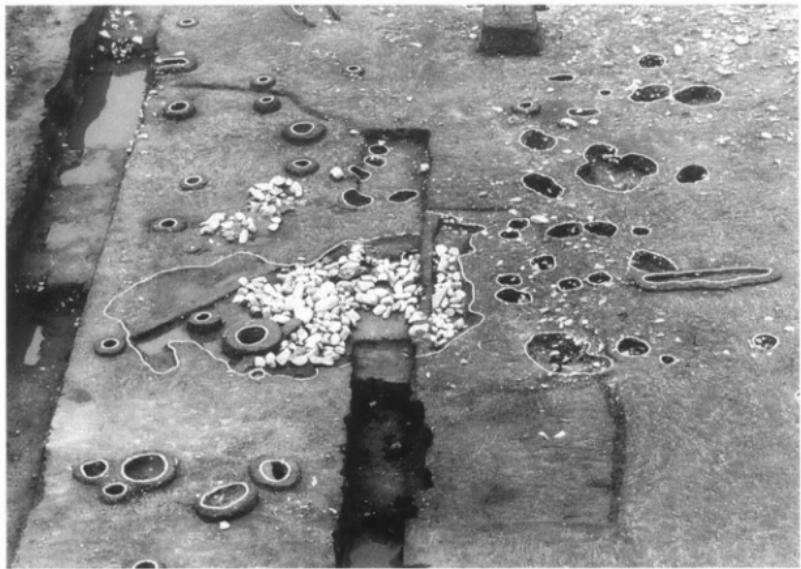
(2) S B 01検出状況（東より）



(1) SK 02 検出状況（北より）



(2) SA 01 (SP 99) 検出状況（北より）



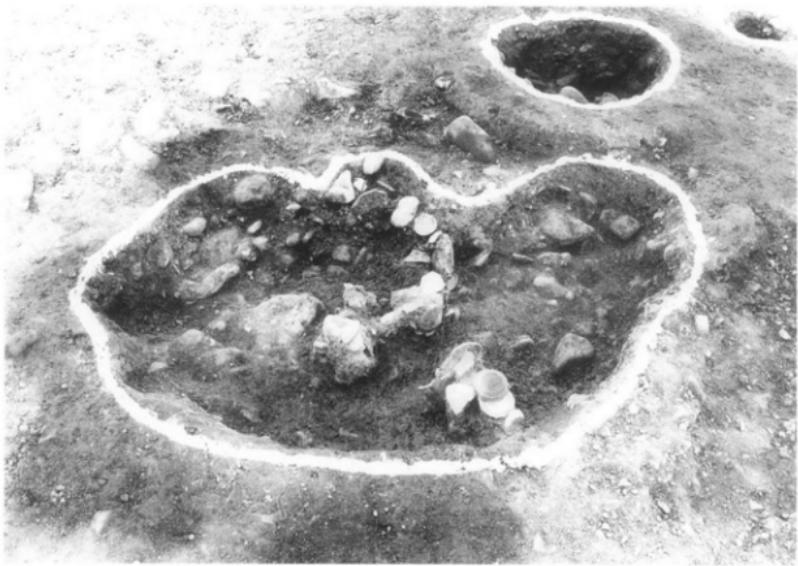
(1) E - 2 区遺構検出状況 (東より)



(2) S-X08検出状況 (北より)



(1) S X 08完掘状況（北より）



(2) S X 10検出状況（南東より）



(1) S X 08・11・12検出状況（西より）



(2) S X 11・12検出状況（北より）

図版12



(1) S X 08 - I3完掘状況（北より）



(2) S X 13完掘状況（南西より）



(1)水田跡検出状況（東より）



(2)水田跡検出状況（北より）

図版14



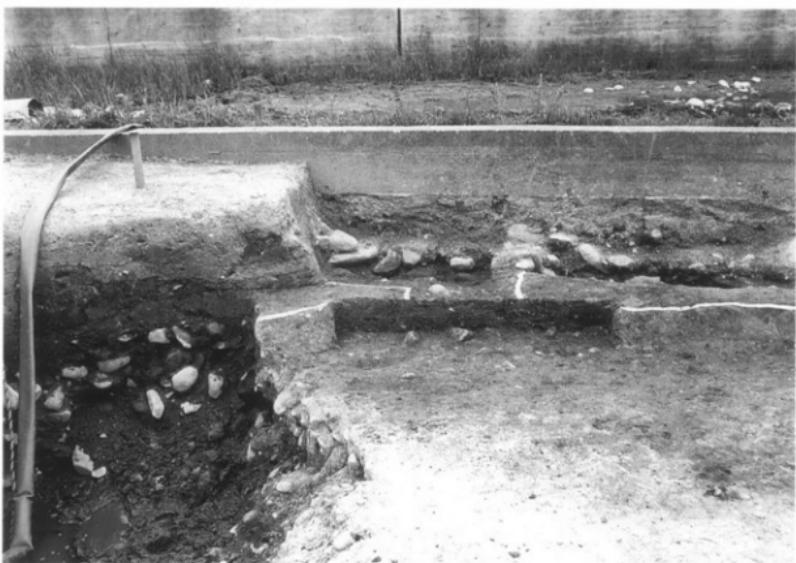
(1)水田跡珪片検出状況（南より）



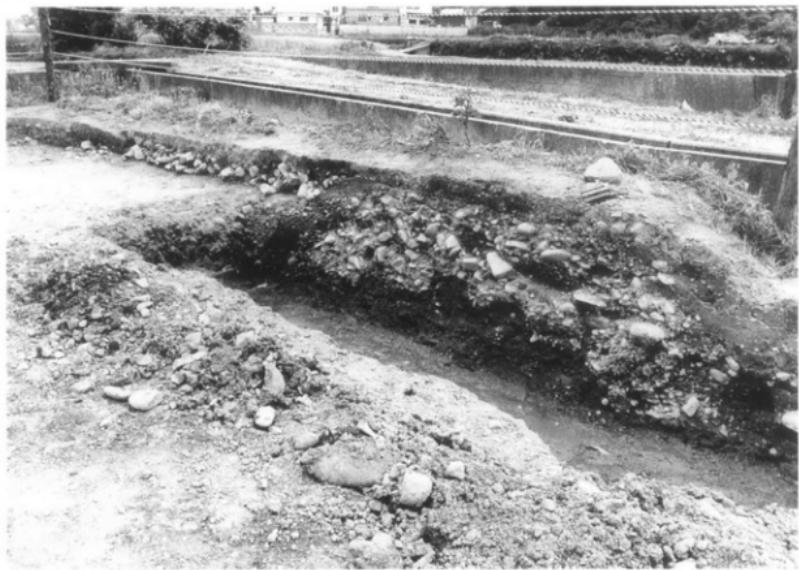
(2)水田跡水口検出状況（東より）



(1)水田跡水口土層断面拡大（南東より）



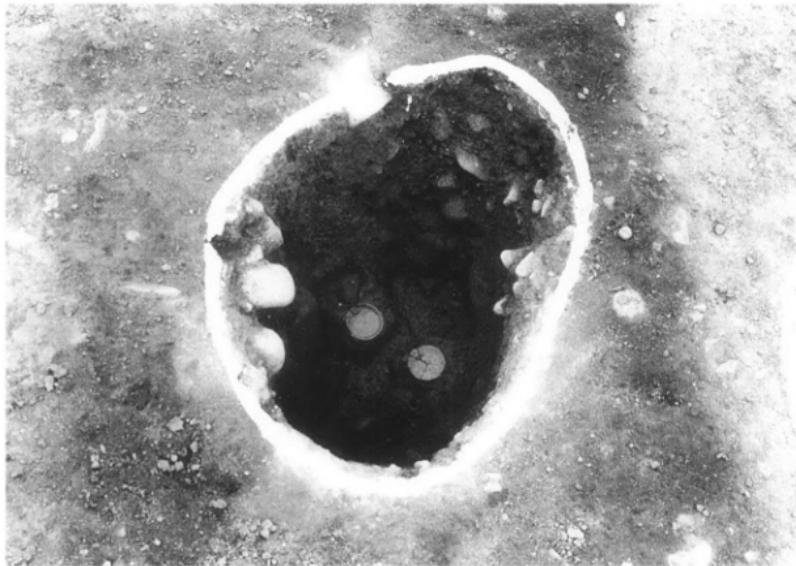
(2)水田跡水口土層断面（南東より）



(1) B - 2 区南壁土層断面（東部分）



(2) B - 2 区南壁土層断面（西部分）



(1) S P 85検出状況（西より）



(2)発掘作業風景

図版18



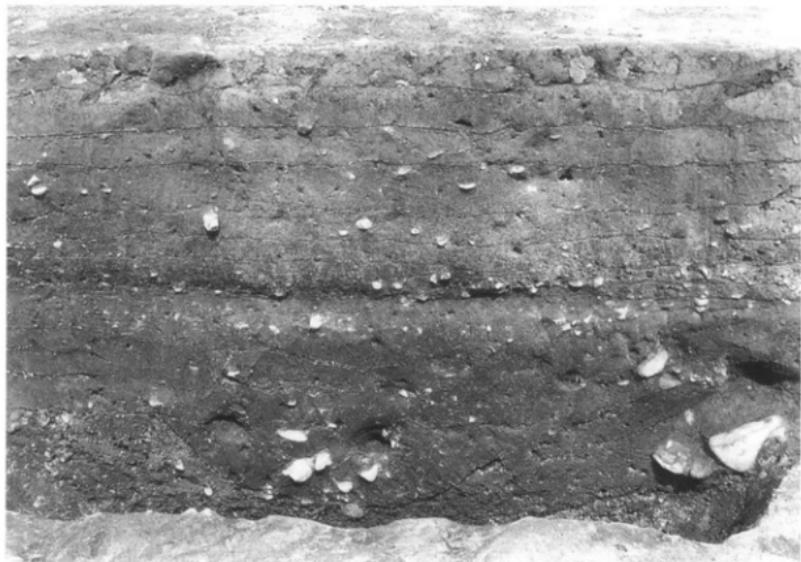
(1) S D 02検出状況（西より）



(2) S D 02検出状況（東より）

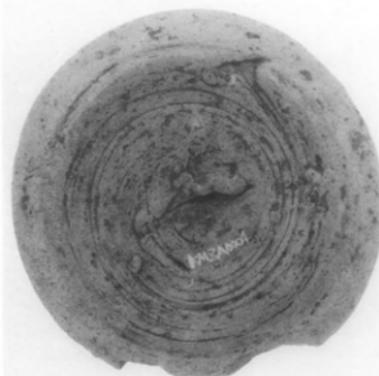
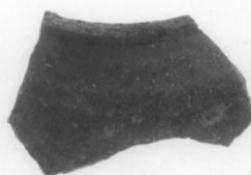


(1) S D 02土層断面（西より）



(2) S D 02土層断面拡大（西より）

图版20



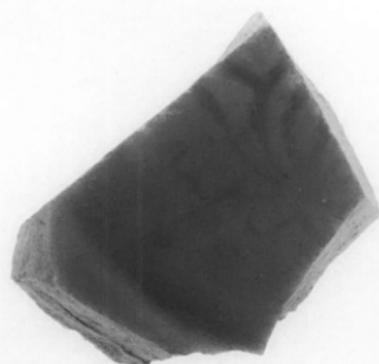
S B 01出土遗物



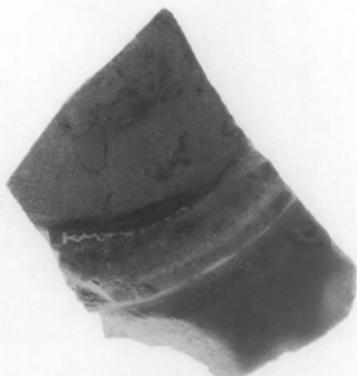
14 (侧面)



S A 01出土遗物



42(内面)



42(外面)



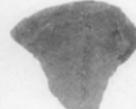
43



44



45



(内面)



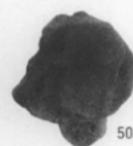
47



48



49



50

(内面)



43



44



45



46



47



48

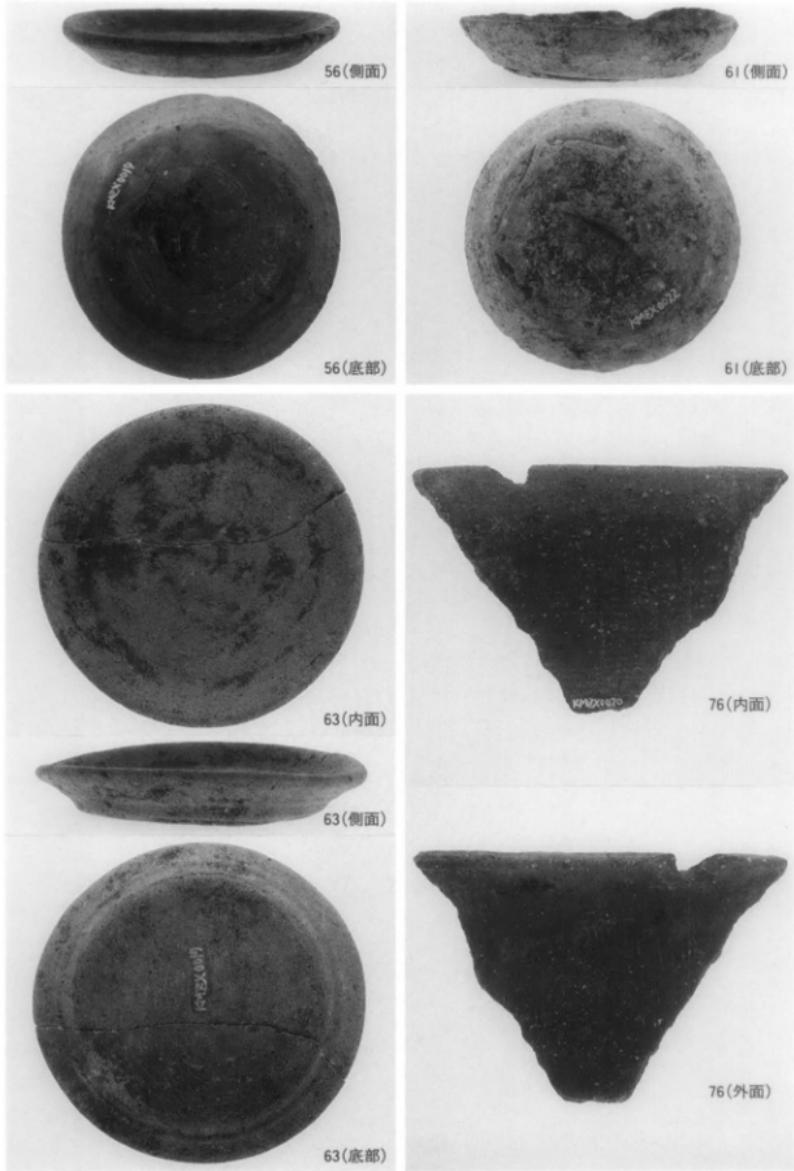


49

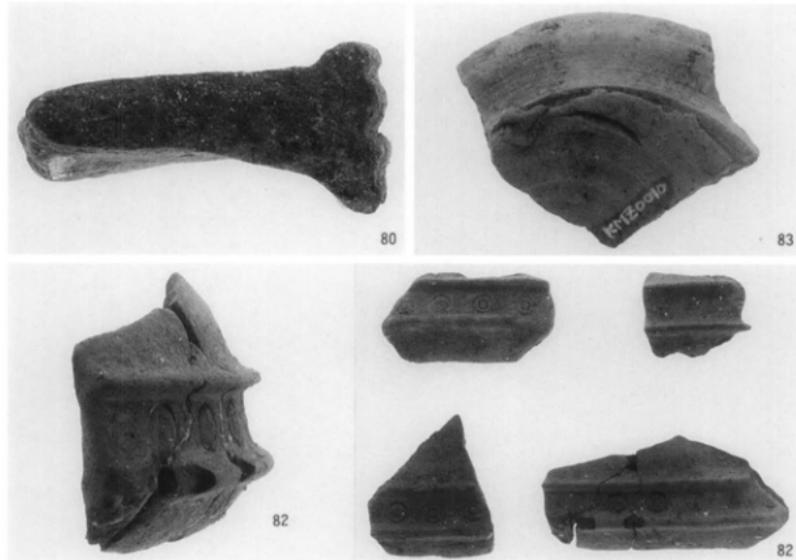


(外側) 50

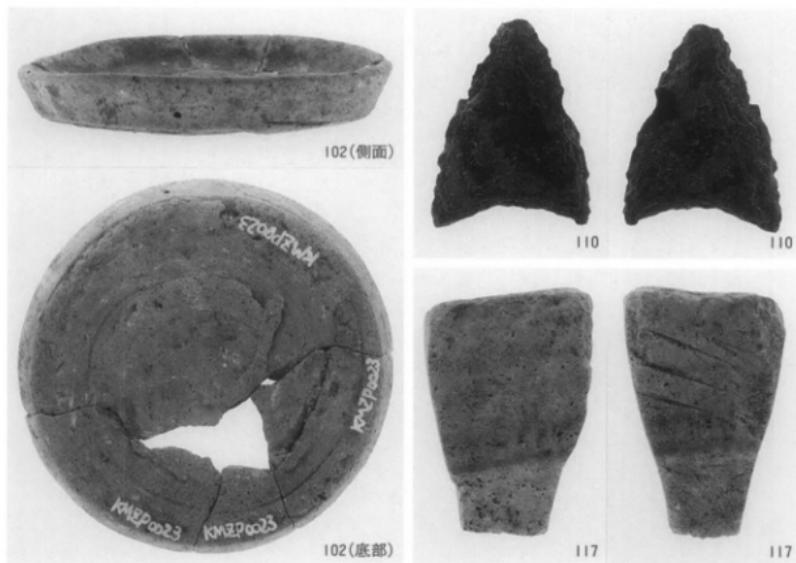
図版22



S X 10出土遺物

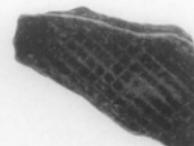
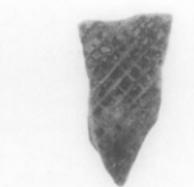


水田上層出土遺物

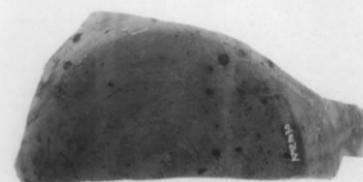
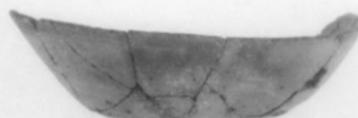


柱穴出土遺物①

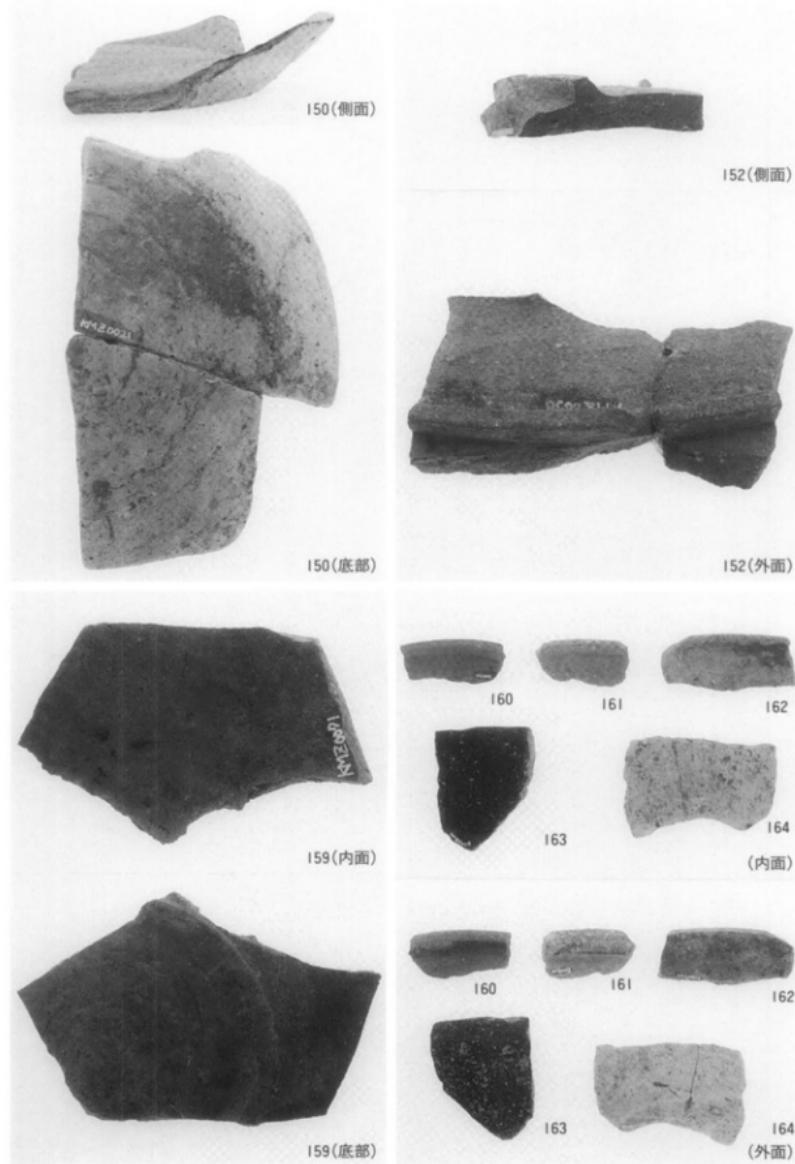
図版24



柱穴出土遺物②



包含層出土遺物①



包含層出土遺物②

報告書抄録

ふりがな	もまいざかいせき									
書名	百相坂遺跡									
副書名	県道三谷香川線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告									
巻次										
シリーズ名										
シリーズ番号										
編著者名	片桐孝浩									
編集機関	財団法人 香川県埋蔵文化財調査センター									
所在地	〒762 香川県坂出市府中町南谷5001番地の4				TEL 0877-48-2191					
発行機関名	香川県教育委員会・財団法人 香川県埋蔵文化財調査センター									
発行年月日	西暦 1997年 6月 30日									
総頁数	目次等	本文	観察表	図版	写真枚数	挿図枚数	付図枚数			
66頁	7頁	27頁	5頁	27頁	86枚	36枚	1枚			
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因			
	市町村: 遺跡番号		°	°		m ²				
もまいざか 百相坂	かがわけん たかまつし 香川県 高松市 ぶっしょうざんちょう 仏生山町甲1382 番地外	37201	34°16'09"	134°16'12"	19950401 ↓ 19950630	1,400m ²	県道香川三 谷線道路改 良工事			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項					
もまいざか 百相坂	集落跡	弥生時代	溝状遺構	弥生土器	弥生時代後期					
		古代	掘立柱建物, 柱穴	須恵器杯・壺	9世紀後半から10世紀前半					
		中世	掘立柱建物, 柱穴, 水田	土質型小口・杯, 土師質土 器土釜・土鍋, 青磁, 白磁	14世紀を中心とする集落					

県道三谷香川線道路改良工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

百相坂遺跡

平成9年6月30日 発行

編集 財團法人香川県埋蔵文化財調査センター

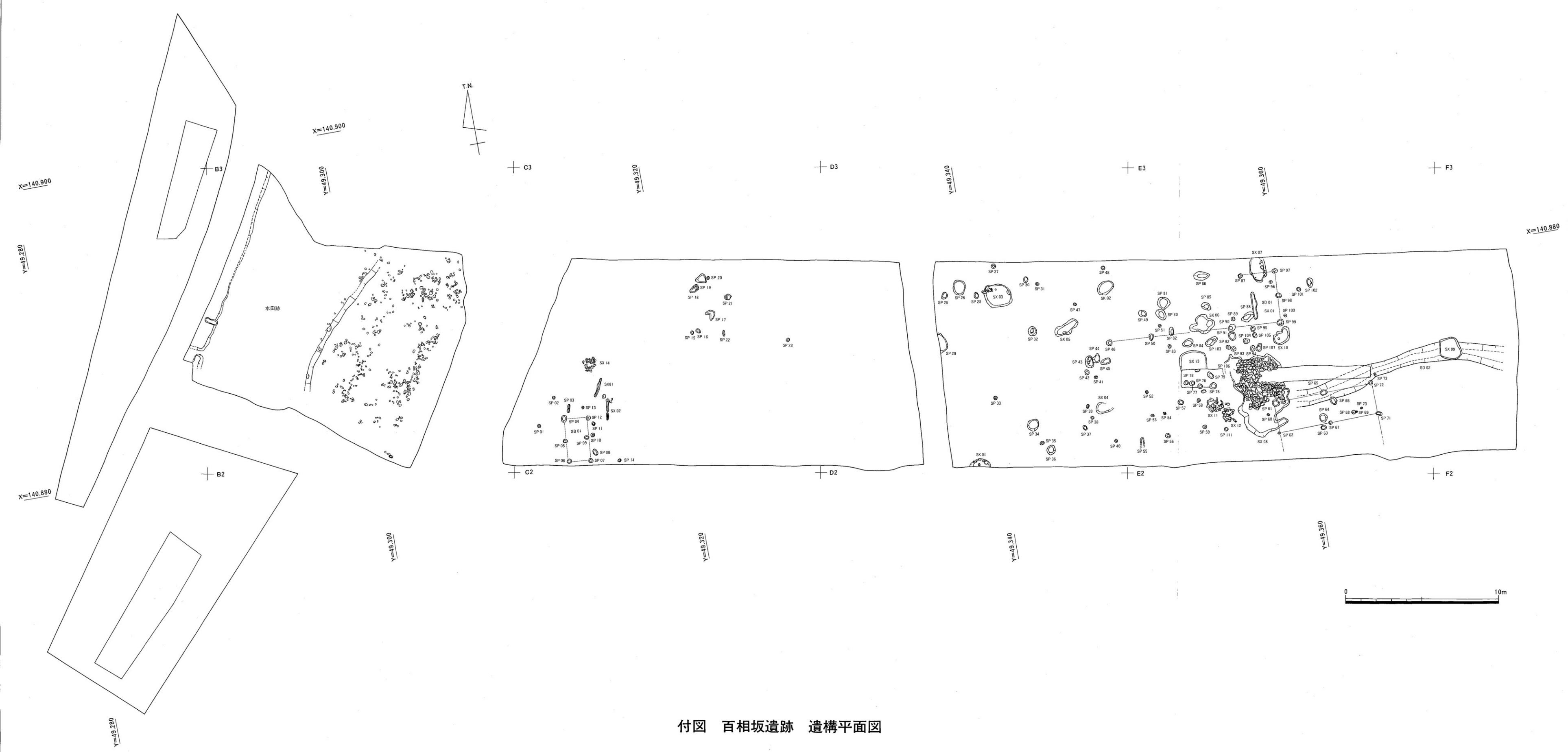
〒762 香川県坂出市府中町字南谷5001番地の4

電話 (0877) 48-2191 (代表)

発行 香川県教育委員会

財團法人香川県埋蔵文化財調査センター

印刷 セキ株式会社



付図 百相坂遺跡 遺構平面図

